

高等教育開発をリードする人材が
集い、学び、成長する場。

全国の高等教育機関の教育の質向上のための
「教職員能力開発拠点」活動報告書

——— 平成28年度

[平成29年3月]

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室

はじめに

平成28年4月、本学は大学憲章を改訂し、「学生中心の大学」、「地域とともに輝く大学」、そして「世界とつながる大学」を創造することを基本理念とした新体制をスタートさせました。また、第3期中期目標期間における機能強化の方向性として、「輝く個性で地域を動かし世界とつながる大学」を目指す「愛媛大学のビジョン」を策定し、「地域の持続的発展を支える人材育成の推進」など3つの戦略と具体的な取組を設定しました。中でも、教育関係共同利用拠点として文部科学大臣から認定を受けている「教職員能力開発拠点（教育・学生支援機構教育企画室）」の強化は、本学が特に注力している取組の一つです。

さて、平成28年3月の大学設置基準改正により、平成29年4月からSDが義務化されることとなりました。本拠点では、独自資格である「SDコーディネーター（SDC）」の認定制度を平成23年3月に設け、SDに関する知識・技術を修得し、SDの実践的指導者として適切な能力を有すると認められる者（SDC）の養成を積極的に推進して参りました。今年度も、学外認定者を含む4名のSDCを輩出するなど、これまでの活動が着実に実を結びつつあるところです。

本拠点では、このようなFD/SD/IRを専門的に担当する専門家・実践的指導者（FDe r /SDC/IR e r）の養成を目的とした講座の開催を重点的な取組としています。学外で毎年開催している講座には、全国の様々な機関から御参加をいただき、好評を得ていますが、こうした講座は、専門家・実践的指導者として必要なノウハウをお伝えするだけでなく、同じ志を持つ方々が一堂に会する「場」を提供させていただくという側面も有しています。情報交換を通じて新たな人的ネットワークの構築が可能となることも、参加者の皆さまから高評価をいただけている一因と考えています。

ここに、教職員能力開発拠点の今年度の活動をまとめた年次報告書をお届けします。われわれとしましては、本拠点の活動内容や成果を広く皆さまに報告し、自らの活動を振り返る中で時宜にかなった新たな活動に結びつけていきたいと考えています。講座開催や研修講師派遣等の活動は、本拠点スタッフにとっても、新たな気づきが得られる貴重な機会であり、本拠点事業を通じて、教育の質向上へと繋がる人材育成の輪が多くの機関、そして多くの方々に広がっていくことを心より願っています。今後とも、教職員能力開発拠点の発展に御支援、御協力くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

国立大学法人愛媛大学長

大橋 裕 一

平成28年度「教職員能力開発拠点」活動報告書

目次

1	愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室について	
	(1) 組織概要	1
	(2) スタッフ紹介	3
2	教職員能力開発拠点について	
	(1) 教職員能力開発拠点の認定について	4
	(2) 教職員能力開発拠点の実施体制について	5
	(3) 教職員能力開発拠点の事業計画について	7
3	平成28年度の事業報告	
	(1) 平成28年度事業の総括	9
	(2) 平成28年度活動実績	
	①FD／SD／IR推進の専門家・実践的指導者 (FDe r, SDコーディネーター, IR e r) の養成・支援	11
	②研修プログラム及び教材の提供	19
	③オープン・オフィス（訪問調査）	40
	④研修講師派遣	41
	⑤情報発信	51
	⑥その他教職員能力開発に関する事業	53
参考資料		
	①第2期教職員能力開発拠点ツリー構造図	59
	②愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室内規	60
	③愛媛大学教職員能力開発拠点（教育・学生支援機構教育企画室）における スタッフ・ディベロップメント・コーディネーターの認定に関する要項	62
	④愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室共同利用運営委員会内規	65
	⑤愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室共同利用推進会議内規	66
	⑥共同利用運営委員会委員名簿及び共同利用推進会議委員名簿	68

1. 愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室について

(1) 組織概要

ミッション

教育・学生支援機構長の指示のもと、愛媛大学の教育に関する諸課題について調査・研究を行うと共に、その成果を実際の教育活動に適用し、本学の教育改革を推進すること。

教育企画室の業務（内規第4条及び第10条） ※P. 60～61参照

1. 全学的な教育課題に係る調査・研究等に関すること。
2. 教育の質保証のための教職員の能力開発に関すること。
3. 授業評価及びシラバスに関すること。
4. 学生の学習支援及び能力開発に関すること。
5. 四国地区大学教職員能力開発ネットワーク事業に関すること。
6. 教職員能力開発拠点事業に関すること。
7. その他教育開発に係る調査、研究等に関すること。

※上記の成果を、他の高等教育機関等の利用に供することができる。

教育企画室各部門について

教育・学習支援部門

主に教職員の能力開発を通して教育活動及び学習活動の支援を行っている。教員の能力開発としては、授業の改善、カリキュラムの改善、組織の整備・改革という3つのレベルにおいて、ワークショップ、セミナー、授業コンサルテーション、教育コーディネーター研修会などを実施している。職員の能力開発としては、教育学生支援部教育企画課及び総務部人事課と教職協働で専門分野別及び階層別のSDのプログラムやサービスを提供している。

教育調査・分析部門

主に教育・学習の実態・成果に関する調査の企画・実施・分析を行っている。新入生や卒業予定者等へのアンケートの調査結果を分析することで全学的な教育改善及び情報公開を行っており、調査結果の報告は「IRレポート」にまとめ、学内関係者に届けている。また、調査結果から想定される課題、他大学も含めたIRに関わる取組などを「教育企画室ニュースレター」に掲載して情報発信をしている。

学生能力開発部門

主に学生の能力開発を知性と人間性の両側面から支援する教育プログラムの開発・実施に取り組んでいる。その代表的な取組が、学生のリーダーシップを高める「愛媛大学リーダーズ・スクール」である。また、スタディ・スキル講座等のプログラム開発、学生による調査・研究プロジェクト（プロジェクトE）の運営、大学院生の能力開発を目的としたTA研修、附属高校のキャリア教育支援等を実施している。

歴史

- 1993年：旧教養部を改組して、大学教育研究実践センター（学内施設）が設置される。
- 2001年：大学教育総合センター（学内施設）となる。
- 2002年：大学教育総合センター（省令施設）となる。
センター内にできた教育システム開発部が、FDを担当する。
- 2004年：教育・学生支援機構の設置に伴い、教育開発センター（共通教育部・教育開発部）に名称を変更する。
- 2006年：教育開発センター（共通教育部・教育開発部）が、それぞれ共通教育センターと教育企画室に改組される。
「特色ある大学教育支援プログラム（特色GP）」に、本学教育・学生支援機構から申請していた「FD/SD/TAD 三位一体型能力開発」（代表：教育・学生支援機構 教育企画室長 高瀬恵次教授）が採択される。
- 2008年：「戦略的大学連携支援事業」に、本学が代表校となり申請した「『四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）』による大学の教育力向上」（代表者：教育・学生支援機構 教育企画室 佐藤浩章准教授）が採択される。
- 2010年：「教職員能力開発拠点」（代表者：小林 直人 愛媛大学教育・学生支援機構副機構長，教育企画室長，認定の有効期間：平成22年4月1日～平成27年3月31日）として、文部科学大臣から教育関係共同利用拠点の認定を受ける。
- 2012年：「大学間連携共同教育推進事業」に、本学が代表校となり申請した「西日本から世界に翔たく異文化交流型リーダーシップ・プログラム（UNGL）」（代表者：教育・学生支援機構 教育企画室 秦敬治教授）が採択される。
- 2014年：2015年以降も引き続き、教育関係共同利用拠点「教職員能力開発拠点」（代表者：小林 直人 愛媛大学教育・学生支援機構副機構長，教育企画室長，認定の有効期間：平成27年4月1日～平成32年3月31日）として、文部科学大臣からの認定を受ける。

(2) スタッフ紹介

教育企画室には、実践経験と研究業績を兼ね備えた、高等教育開発を専門とするスタッフが配属されている。

<教育企画室 スタッフ>

氏 名	職 名	専 門
小林 直人 - KOBAYASHI Naoto	学長特別補佐（教育）， 教育・学生支援機構副機構長， 教育企画室長，医学部教授	医学教育カリキュラム， 学生の自己学習への支援，FD 等
中井 俊樹 - NAKAI Toshiki	教育企画室副室長，教授	高等教育論，人材育成論 （SDC資格取得者）
清水 栄子 - SHIMIZU Eiko	講師	高等教育，学習支援 （SDC資格取得者）
村田 晋也 - MURATA Shinya	講師	組織論（FD），リーダーシップ論， 人的資源管理論
丸山 智子 - MARUYAMA Tomoko	特任助教	教育開発，リーダーシップ， プロジェクト・マネジメント （SDC資格取得者）
小林 忠資 - KOBAYASHI Tadashi	特任助教	比較教育，高等教育
加地 真弥 - KAJI Maya	特定研究員	教育学，英語教育，IR
平尾 智隆 - HIRAO Tomotaka	学生支援センター准教授	教育経済学
阿部 光伸 - ABE Mitsunobu	学生支援センター講師， 広報室副室長	SD，高等教育政策，産業教育論 （SDC資格取得者）
高橋 平徳 - TAKAHASHI Yoshinori	教職総合センター講師	生涯学習論，人的資源管理論
仲道 雅輝 - NAKAMICHI Masaki	総合情報メディアセンター講師， 教育デザイン室長	インストラクショナルデザイン， 教育工学，FD，e-learning （SDC資格取得者）

(1) 教職員能力開発拠点の認定について

教育関係共同利用拠点制度は、多様化する社会と学生のニーズに応えつつ質の高い教育を提供していくために、各大学の有する人的・物的資源の共同利用等を推進することで大学教育全体として多様かつ高度な教育を展開していく取組を国が支援することを目的として創設された制度である。

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室は、これまで行ってきた教職員能力開発のための研修講師の派遣や独自に開発したFD研修プログラムの提供及び「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）」における教職協働など幅広い取組実績が評価され、平成22年3月23日に文部科学大臣から教育関係共同利用拠点に認定された。教育関係共同利用拠点には、練習船、農場、臨海・臨湖実験所、日本語教育センター等といったいくつかの類型があるが、本拠点は「大学の教職員の組織的な研修等の実施機関」として認定を受けた。平成26年7月31日には、本拠点のこれまでの実績と、他大学にも開かれ、かつ他大学からの参加者の成長・習熟を担保できる拠点として発展が期待できる点が高く評価され、教育関係共同利用拠点としてさらに5年間認定が継続された。他大学や諸学協会等との連携により、これまで提供してきたプログラムの充実やFD/SD/I Rの専門家・実践的指導者の育成を図り、全国の高等教育機関の組織的な向上を目指していく。

- ◎拠点名：教職員能力開発拠点
- ◎認定施設の種類：大学の教職員の組織的な研修等の実施機関
- ◎認定の有効期間：平成22年4月1日～平成27年3月31日（5年間）
平成27年4月1日～平成32年3月31日（5年間）（再認定）
- ◎代表者名：小林 直人（愛媛大学教育・学生支援機構副機構長 教育企画室長）

【参考】本拠点以外の「大学の教職員の組織的な研修等の実施機関」に係る拠点（平成28年度）

施設名	拠点名
北海道大学 高等教育研修センター	教職員の組織的な研修等の共同利用拠点
東北大学 高度教養教育・学生支援機構	教職員の組織的な研修等の共同利用拠点
筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター	障害者高等教育拠点
千葉大学 大学院看護学研究科附属 看護実践研究指導センター	看護学教育研究共同利用拠点
千葉大学 アカデミック・リンク・センター	教職員の組織的な研修等の共同利用拠点 (教育・学修支援専門職養成)
岐阜大学 医学教育開発研究センター	医学教育共同利用拠点
山口大学 知的財産センター	教職員の組織的な研修等の共同利用拠点 (知的財産教育)
帝京大学 高等教育開発センター	教職員の組織的な研修等の共同利用拠点
九州大学 基幹教育院	次世代型大学教育開発拠点
佐賀大学 全学教育機構 (クリエイティブ・ ラーニングセンター)	教職員の組織的な研修等の共同利用拠点 (ICT活用教育)
芝浦工業大学 教育イノベーション推進センター	理工学教育共同利用拠点

(2) 教職員能力開発拠点の実施体制について

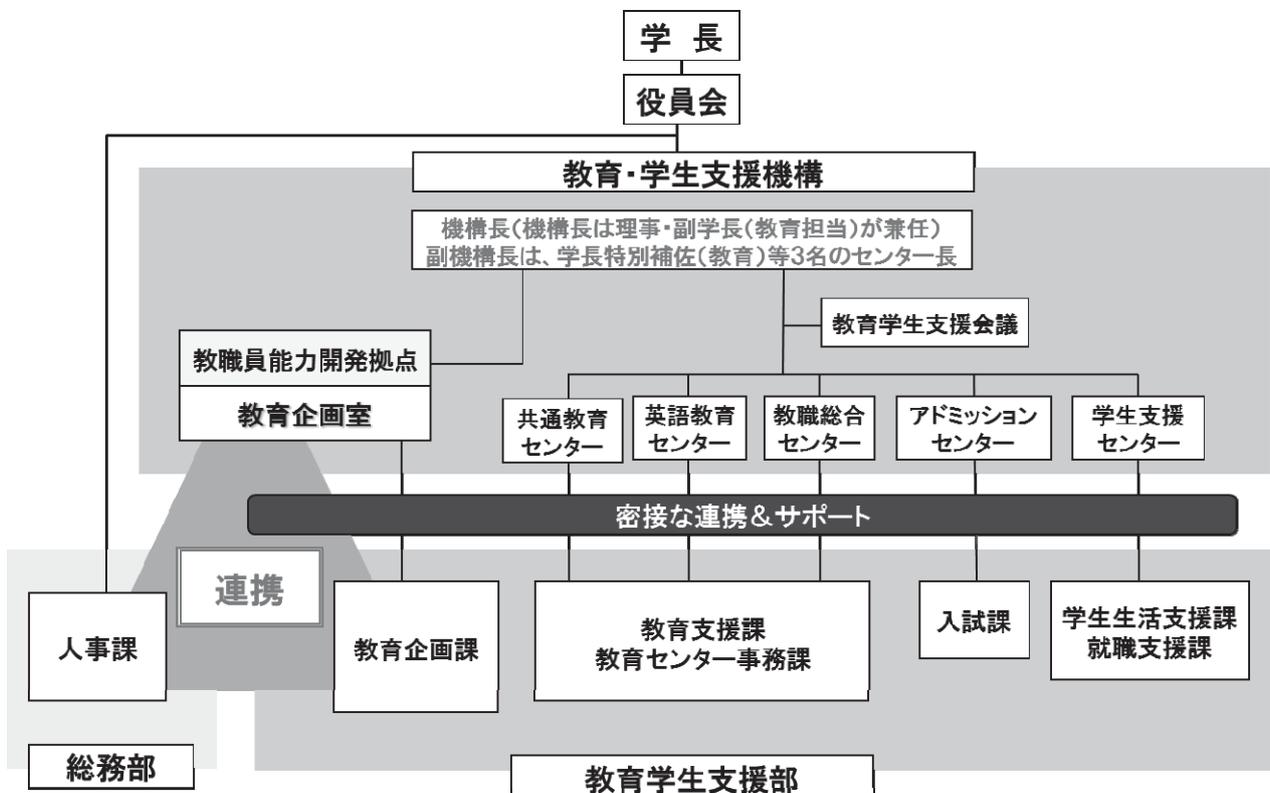
教育企画室が所属する教育・学生支援機構は、愛媛大学の教育理念と目標に沿い、教育の充実及び学生の修学支援等の強化を図り、これらに伴う諸課題に対処し、迅速で効率的な意思決定を行うことを目的に設置された組織で、以下の業務を行っている。

(教育・学生支援機構の業務)

1. 学士課程及び大学院課程の教育の改善及び充実に関すること。
2. 共通教育の企画及び実施に関すること。
3. 学生の受入れ、修学支援、課外活動支援、就職支援等の企画及び実施に関すること。
4. その他、目的を達成するために必要な事項。

その中で、教育企画室は、教育・学生支援機構長（理事・副学長（教育担当）が兼任）の直属機関として、機構長の指示のもと、愛媛大学の教育に関する諸課題について調査、研究等を行うとともに、その成果を実際の教育活動に適用し、愛媛大学の教育改革を推進することを目的として設置されている。また、教職員能力開発拠点の再認定を受け、これまで提供してきたプログラムの充実や重点事業の推進を図り、全国の高等教育機関等の利用に供している。

教職員能力開発拠点は、教育学生支援部教育企画課及び総務部人事課と教職協働で教職員の能力開発や教育改革の取組を行っている。

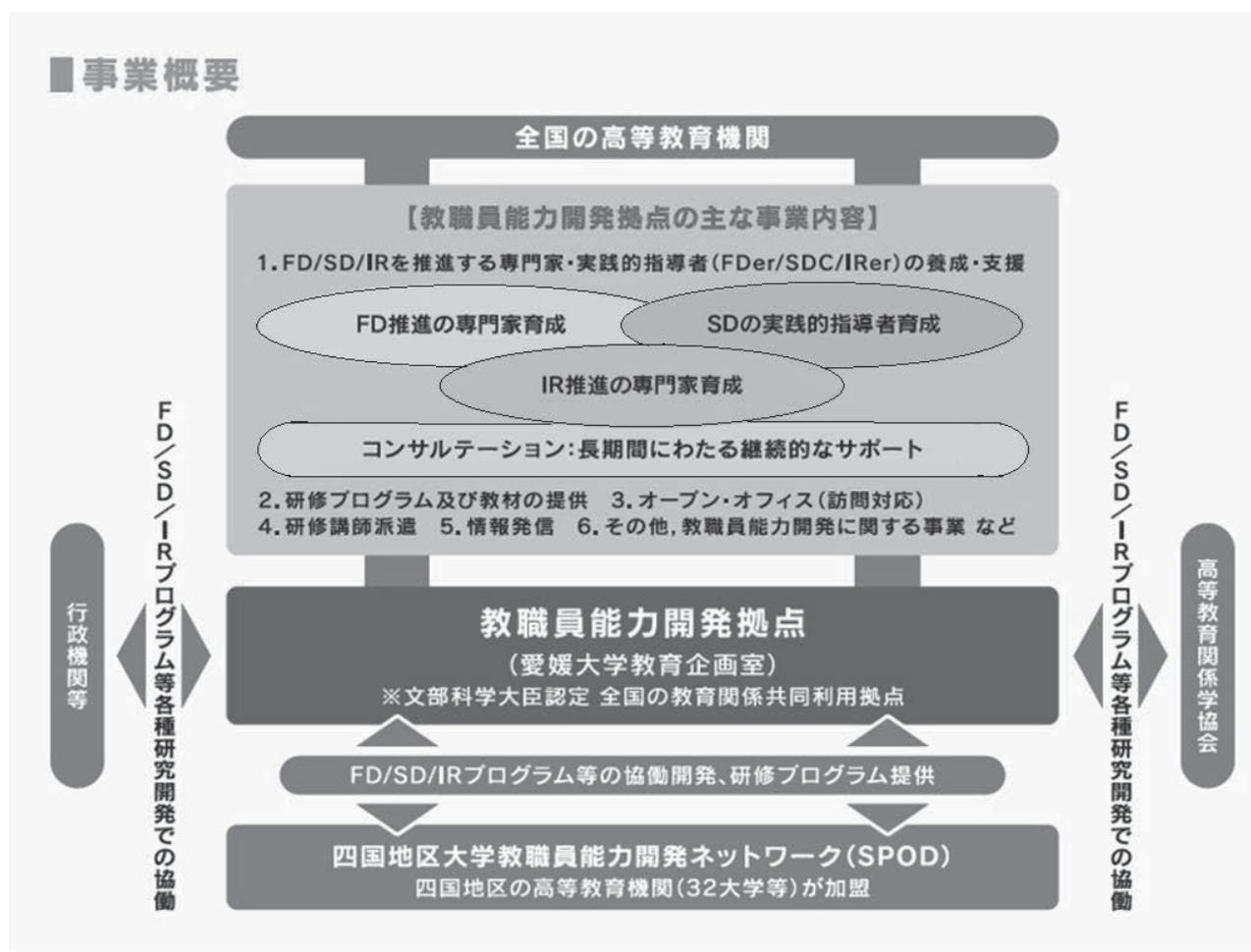


教育企画室には、共同利用運営委員会及び共同利用推進会議を置いている。

共同利用運営委員会は、教職員能力開発拠点の運営に関する重要な事項を審議しており、教育企画室員のほか、学外の学識経験者4名もメンバーになっている（P.68参照）。

平成27年度以降の認定継続を受け、平成27年6月に同委員会において、再認定後の「第2期教職員能力開発拠点の事業等に関する基本方針」を策定した（次頁参照）。また、本拠点事業の評価・改善を円滑に行うために、事業目的や評価指標を示した「第2期教職員能力開発拠点ツリー構造図」についても併せて作成した（P.59参照）。

共同利用推進会議は、共同利用運営委員会が定める基本方針に基づき、共同利用の事業等を実施するために必要な事項を審議しており、教職員能力開発拠点運営スタッフである教育企画課長や人事課長がメンバーに入っている。



教職員能力開発拠点は、四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）、（公財）大学コンソーシアム京都や日本高等教育開発協会（JAED）などの高等教育関係学協会等と各種プログラムで連携し、事業を行っている。今後はさらに、他の教育関係共同利用拠点との連携も検討している。

(3) 教職員能力開発拠点の事業計画について

平成27年度以降の認定継続を受け、平成27年6月に「第2期教職員能力開発拠点の事業等に関する基本方針」が共同利用運営委員会において策定された。この基本方針に基づき、毎年、事業計画が立てられている。

第2期教職員能力開発拠点の事業等に関する基本方針

平成27年6月30日

共同利用運営委員会決定

1. 事業目的

本事業は、学生の学びの促進を担う教職員の能力開発を行うことにより、全国の高等教育機関における教育の質向上に寄与することを目的とする。これまでに開発したFD/SDプログラムを充実させ、全国の高等教育機関で活用できる研修および各種サービスを提供する。とりわけ、高い波及効果が期待できるFD/SD/IRの専門家・実践的指導者の養成を重点的な取り組みとし、各組織における自律的な教育改善を支援することを目指す。

2. 事業内容

(1) 教職員能力開発拠点は、教職員能力開発に関する以下の事業を行う。

- ①FD/SD/IR推進の専門家・実践的指導者（F D e r, S Dコーディネーター, I R e r）の養成・支援
- ②研修プログラム及び教材の提供
- ③オープン・オフィス（訪問対応）
- ④研修講師派遣
- ⑤情報発信
- ⑥その他、教職員能力開発に関する事業

※上記①～⑥までの事業を行うために必要な施設は、授業やその他の行事と併用しながら提供する。

(2) (1)の事業を実施するために、以下の活動を行う。

- ①広報（ホームページ、案内パンフレット、メールマガジン等）
- ②他機関との連携等によるプログラム及び教材等の開発
- ③研修講師及び訪問対応ができる人材の育成

3. 利用申込み方法

教育企画室ウェブサイト、案内パンフレット等でプログラム内容、定員、連絡先等を示し、参加者等の申込みを受け付ける。

4. 共同利用の決定等

(1) 研修講師派遣

教育企画室ウェブサイトに研修ニーズアンケートを掲載し、その結果及び以下の優先順位に基づき、教育企画室会議で研修講師派遣の可否及び研修講師を決定する。

【優先順位】

- ① 複数の高等教育機関の教職員が参加する研修である。
- ② 単一の高等教育機関においても全学的な取組である。
- ③ その他

(2) 訪問対応

教育企画室ウェブサイトに訪問ニーズアンケートを掲載し、その結果に基づき、教育企画室会議で訪問対応の可否を決定する。

(3) 研修プログラム提供

愛媛大学が提供するプログラムの中から、教育企画室会議で提供する研修プログラムを決定する。ただし、他の機関やコンソーシアムと共同で実施する研修プログラムについては、定員数、申込み方法、共同利用の決定方法やアンケート様式等について当該機関と協議を行う。

(4) 教材等提供

教育企画室ウェブサイトに掲載する教材等は、非営利目的においてのみ利用できるものとし、利用にあたっては、次の「利用条件」を付すものとする。

【利用条件】

- ① 教材等を改変しないこと。なお、技術的に再現困難な場合には、改変することを認めるが内容は改変しないこと。
- ② 必ず教材等の出所（教材作成者名、教材名、研修会（会議）名等）の表示を行うこと。
- ③ 教材等を引用の範囲を超える目的で利用する場合には、作成者の使用許諾を必ずとること。
※上記③の使用許諾が必要な方は、愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室に所属、氏名、連絡先、使用許諾が必要な資料名、利用目的を記載し、申請すること（様式任意）。

5. 実績管理

共同利用運営委員会等に報告するため、1年間の各事業の実績を所定の様式に取りまとめる。また、各事業の評価を得るため、以下のことを行う。

- (1) 講師派遣 派遣先の機関が実施するアンケート結果の提供を依頼する。
- (2) 訪問対応 アンケート様式を作成し、訪問者に依頼する。
- (3) 研修プログラム提供 アンケート様式を作成し、プログラム受講者に依頼する。

上記に基づき、教職員能力開発拠点の事業等を実施するために必要な事項については、教育企画室会議で決定する。

平成28年度教職員能力開発拠点事業計画

◇全体計画

教職員能力開発拠点（愛媛大学教育企画室）は、全国の教育関係共同利用拠点として、FD/S D/I Rの専門性の高い指導者の育成、及び長期的なコンサルテーションを通じた各組織の自律的な教育改善の支援など、以下の事業を行うほか、他の機関やコンソーシアムとの連携を強化する。さらに、平成27年度までの実績を踏まえ、その成果について具体的な事例収集及び効果検証を行い、本事業の充実を図る。

◇事業内容

- ①FD/S D/I R推進の専門家・実践的指導者（F D e r, S Dコーディネーター, I R e r）の養成・支援
自大学において教育改善を推進できるF D e r（ファカルティ・ディベロッパー）、S Dコーディネーター（能力開発担当職員）、教学I R e r（教学分野に特化した機関調査の担当教職員）を養成するための研修を実施するほか、研修受講者に対する継続的な支援を実施する。平成28年度は「S D C/I R e r養成講座」を開催予定である。
- ②研修プログラム及び教材の提供
設置形態や組織の規模、受験難易度等にとらわれない、全国の高等教育機関で活用できる基礎的・共通的なFD/S Dプログラムを提供する。さらに、ガバナンス機能の強化にも対応できるよう、新たにI R関係プログラムを開発・提供する。さらに、研修のために開発された教材等、教職員の能力開発に関するオリジナル教材を教育企画室のウェブサイトに掲載し、高等教育機関等の非営利目的において利用してもらう。
- ③オープン・オフィス（訪問調査）
愛媛大学の取組事例や各種プログラムの紹介や全国の高等教育機関のFD/S D/I Rに関するお悩み相談を年5回程度行う。年間スケジュールについては、あらかじめ教育企画室のウェブサイトに掲載し、高等教育機関の教職員が参加しやすいようにする。
- ④研修講師派遣
多種多様なメニューや経験豊富なスタッフを揃え、引き続き、全国の高等教育機関のニーズにあう研修講師を派遣する。事前に「研修ニーズアンケート」を行うなどして、ニーズの把握に努める。研修講師先については、基本方針に定めた優先順位に基づき、決定する。
- ⑤情報発信
教育企画室ウェブサイトの充実を図り、広く教職員の能力開発に関わる情報を発信する。また、本拠点の取組内容や活動実績・成果等について、学会等で発表していく。
- ⑥その他教職員能力開発に関する事業
上記オープン・オフィスや研修講師派遣に、カリキュラムコンサルティングや能力開発コンサルティングといったコンサルテーションを組み合わせた継続的な支援を行う。さらに、他の機関やコンソーシアムとネットワークを形成し、連携した事業についても検討していく。

3. 平成28年度の事業報告

(1) 平成28年度事業の総括

はじめに

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室は、平成26年7月に「教職員能力開発拠点」として5年間の再認定を受け、昨年度、新たに「第2期教職員能力開発拠点の事業等に関する基本方針」（P.7参照）を策定した。この基本方針に基づき、自律（立）的に教育改善を推進できる人材の育成や組織運営を支援するため、各種研修をはじめとする教育的資源の提供を行っている。以下、今年度の取組状況を総括していく。

1. FD/SD/IR推進の専門家・実践的指導者（F D e r, S Dコーディネーター, I R e r）の養成・支援

本事業の中でも特に重点を置く取組であり、今年度はSDに関して2講座、IRに関して1講座を開催した。10月14日～16日に名古屋で開催した「SDコーディネーター（SDC）養成講座&IR e r養成講座」では、全国から51名の教職員が参加し、それぞれの役割に必要な知識や具体的手法を学んだ。また、SDC養成講座受講生に対する継続的支援として、2月11日～12日に「SDC養成講座フォローアップセミナー」を開催し、8名の参加者がSDC資格取得に向けて、より実践的なプログラムに臨んだ。これらの講座は、所属大学が抱える課題や事例に関する情報共有の場としても活用されている。

2. 研修プログラム及び教材の提供

教職員個々の能力開発から組織レベルの教育力向上まで、幅広く高等教育機関で活用できる知識やスキルを習得できるよう、全18プログラムを提供した。今年度は全国から延べ318名の参加があり、いずれの研修においても参加者から高い満足度を得た（平成29年2月末現在）。

特に、11月26日～27日に愛媛大学において開催した「スタッフ・ポートフォリオ（SP）作成ワークショップ」では、「SPを作成したい」「SPについてもっと知りたい」と関東、近畿、四国等各地から11名の職員が参加した。ワークショップでは、愛媛大学の事例を交えながらSPの有効性について学び、講師によるメンタリングを受け、実際にSPを作成した。

教材については、教育企画室が開発したオリジナルの教材等を愛媛大学教育企画室のホームページに掲載しており、非営利目的で活用いただけるようにしている。

3. オープン・オフィス（訪問調査）

本学の取組への問合せやFD/SD/IRに関する相談等、全国の高等教育機関等からの訪問調査に対応するため、オープン・オフィスを年5回設定している。また、オープン・オフィス以外に個別訪問にも対応しており、今年度は国公立大学を含む12機関から個別訪問があった。訪問目的に合わせて最適な教職員が対応にあたり、愛媛大学の取組事例を基に効果的な組織体制のための提案を行った（平成29年2月末現在）。

4. 研修講師派遣

経験豊富なスタッフや多種多様な提供メニューを整え、全国の高等教育機関からの依頼に応じて研修講師を派遣している。今年度は、金沢大学、愛知医科大学、東京都立産業技術高等専門学校等、全国の高等教育機関に対し、61件の派遣を行った（平成29年2月末現在）。

5. 情報発信

昨年度に引き続き、ポスター「データから考える愛大授業改善 Vol.2」や教育企画室ニューズレター「IR News 第4号」を作成し、IRを中心に愛媛大学の取組や研究成果を学内外に発信している。また、本拠点が推薦する書籍をリストアップしたリーフレット「大学教職員のための32冊」について、愛媛大学図書館に特設コーナーを設置して推薦図書と合わせて展示する等、身近なツールとして公開した。

なお、教育企画室のホームページでも、各種イベント・セミナーの案内や教材等の提供をはじめとした教職員能力開発に関する情報を広く発信している。

6. その他教職員能力開発に関する事業

上記以外に、授業やカリキュラムの改善、IRの組織等、能力開発や組織に関わる個別相談を受け付けており、今年度は7件のコンサルティングを行った。

また、中央教育審議会大学分科会大学教育部会（第44回）において、大学の事務職員等の在り方について審議される中、本拠点のSDC養成事業がSDの具体的事例として資料に取り上げられた。

その他、学会発表や論文・記事の誌面掲載等により、本拠点の成果や実績のアウトプットを行った。

おわりに

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室は、平成27年度以降の5年間、教育関係共同利用拠点「教職員能力開発拠点」として再認定を受け、今年度も他大学や関係機関の皆様に御支援をいただき、各事業に取り組んで参りました。

特に、重点事業である、FD/SD/IR推進の専門家・実践的指導者の養成・支援については10月に「SDコーディネーター（SDC）養成講座&IRer養成講座」を椋山女学園大学との共催で開催し、全国各地から50名以上の教職員が参加されました。開催にあたり、御協力いただいた関係者の皆様に改めて御礼申し上げます。

また、SDへの関心が高まる中、本拠点においてもその実践的指導者の輩出に取り組んでおり、今年度は4名のSDC資格者を認定しました。今後も他大学や関係機関との連携を図りながら、高等教育の発展に努めて参りたいと考えております。全国の高等教育機関の皆様におかれましては、引き続き、本事業に御理解と御支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

教職員能力開発拠点 代表

小林 直人（愛媛大学学長特別補佐、教育・学生支援機構教育企画室長）

(2) 平成28年度活動実績

① FD/SD/IR推進の専門家・実践的指導者（FDe r, SDコーディネーター, IRer）の養成・支援

各大学等において自律（立）的にFD, SD及びIRを推進できる専門家・実践的指導者の養成は、特に高い波及効果が期待できるため、高等教育の質向上に大きく資することのできるニーズの高い事業の一つとなっている。本拠点では認定継続を受け、第1期から取り組んでいるFD/SD/IR推進の専門家・実践的指導者の養成にさらに重点を置いて活動を行っていくこととしており、今年度も他大学やコンソーシアムと連携しながら、SDについて2講座、IRについて1講座を開講した。

なお、「FDe r 養成講座」については隔年開催となっているため、来年度実施予定である。

1) SDの実践的指導者の養成・支援

本拠点では、職員の能力開発に関する知識・技術を修得し、特定の認定基準を満たしたSDの実践的指導者のことを「SDコーディネーター（SDC）」と称しており、今年度は学外者2名を含む4名が新たにSDCとして資格認定された（詳細はP.62参照）。

SDC（スタッフ・ディベロップメント・コーディネーター：SD実践的指導者）とは

職員の能力開発に関する知識・技術を修得し、以下4点を担うことのできるSD実践的指導者。

- (1) 大学等における人材育成ビジョンの構築の援助
- (2) 各大学等におけるSDプログラムの企画・立案
- (3) 職員のキャリア開発
- (4) 人材育成を目的とした目標管理制度などの企画・立案

SDCの資格認定基準

1. 高等教育機関におけるSDプログラム開発・企画・評価の手法を修得している。
2. 高等教育機関における職員人材育成ビジョンを構築・支援するための手法を修得している。
3. スタッフ・ポートフォリオ※を作成する職員に対するメンター経験を有している。
4. 資格の認定を受けようとする者が所属する機関以外において主催される研修会の講師の経験を原則、7回以上有している。

※スタッフ・ポートフォリオとは、SPOD（四国地区大学教職員能力開発ネットワーク）が開発した職員の業績記録の一形態であり、職員としての業績を具体的な裏付け（エビデンス）に基づき振り返ることにより、自らの成長をあらためて認識できるものをいう。

■ 10月14日（金）～16日（日）開催 SDコーディネーター養成講座

平成24年度以降、毎年「SDコーディネーター養成講座」を開催しており、今年度は名古屋で開催したところ、中部地方を中心に16名の職員の参加があった。参加者は、人材育成ビジョンやキャリア開発について知識や手法を学んだ後、SDプログラムの企画、運営、評価の基本を学び、実際にSDプログラムを開発するワークに臨んだ。最終日には開発したSDプログラムについてポスターセッション形式で発表を行い、3日間の成果を共有することができた。参加者からは、進行や運営を含めて講座全体を通して大変好評であった。



【事後アンケート結果】

- ①研修は全体的に満足できるものだった。 100%（そう思う＋どちらかと言えばそう思う）
- ②知識やスキルを身につけることができた。 100%（そう思う＋どちらかと言えばそう思う）

【参加者からの声】

- ・短期間でSDに関わる様々なアプローチを学ぶことができた。
- ・研修プログラムを単に（思いつきで）つくるのではなく、根拠に基づいて作成する手法を学ぶことができ、良かった。
- ・自分自身のスキルアップとなった。今後、自大学のSDへと繋げることができる。
- ・各大学のSDへの取り組み状況を知ることができた。

<プログラム構成>

◆組織の人材育成ビジョン作成ワークショップ

自大学における人材育成ビジョンの構築を目指す。例えば、求める職員像や職員のキャリア開発、キャリア形成のために、組織としてどのようなビジョンが必要であるか等を学ぶ。

◆キャリア開発手法／個人のビジョン作成ワークショップ

参加者が自らのスタッフ・ポートフォリオを作成し、ワークショップを通じて職員としての理念・ビジョンを整理し、自らがメンターとしてメンタリングを体験することにより、職員のキャリア開発手法を学ぶ。

◆SDプログラム企画・運営・評価手法／SDプログラム開発ワークショップ

SDプログラムを企画・運営・評価するための手法を学ぶ。さらに、ワークショップを通じて開発したSDプログラムについて、ポスターセッション形式で共有を行う。

※受講者は事前課題としてスタッフ・ポートフォリオを作成

■ 2月11日（土）～12日（日）開催「SDC養成講座」フォローアップセミナー

今年度実施分を含む、過去の「SDC養成講座」受講者への継続的な支援として、平成25年度以降毎年フォローアップセミナーを開催している。今年度は、2月11日（土）～12日（日）の2日間にわたって当該セミナーを東京で開催し、今年度10月に名古屋で開催したSDC養成講座受講者6名を含む8名が参加した。

<プログラム構成>

◆研修プログラム設計法／シラバスについて

自らがデザインしたSD研修を講師として担えるようになるため、研修設計の方法及びシラバスの役割や書き方について学ぶ。

◆プレゼンテーション／ファシリテーションについて

プレゼンテーションの技法やファシリテーターの役割について学ぶことによりSD講師としての基本を身につける。

◆SD講師実践

1人あたり20分間のSD研修を実践。参加者がそのSD研修に対するフィードバックを行う。これを何度か繰り返し、自分と他者の講義を省察しながら、講義・説明・プレゼンテーションのスキルアップを行っていく。教える技術だけではなく、学習者心理を理解し、評価法などを学ぶ。

※受講者は、事前課題として模擬研修の準備（シラバス、研修資料の作成）を行う。

【事後アンケート結果】

- ①研修は全体的に満足できるものだった。 100%（そう思う＋どちらかと言えばそう思う）
- ②知識やスキルを身につけることができた。 85.7%（そう思う＋どちらかと言えばそう思う）

【参加者からの声】

- ・本学のSDプロジェクトにも共有し、本学でのSD研修を自力で開催する時の質向上につなげたい。
- ・シラバス、プログラム設計の理論的な整理ができた。
- ・先生方から親切に色々なことを教えていただき、先生方の立ち居振る舞いから勉強することができた。

■ 上記セミナー受講者の自大学におけるSD実践例

日本赤十字秋田看護大学では、昨年度のSDC養成講座やSDC養成講座フォローアップセミナー受講者が中心となり、2回にわたって「人材育成ビジョン作成ワークショップ」を開催した。SDC養成講座等の受講によって得られた手法などを用いて自大学の「人材育成ビジョン」を作成することにより、職員の計画的な人材育成を目指すもので、大学全体に「人材育成ビジョン」の重要性を伝える貴重な機会となった。

2) IR推進の専門家の養成・支援

IR（インスティテューショナル・リサーチ）は、計画立案、政策形成、意思決定を支援するための情報を提供する活動である。近年、各大学では大学のガバナンス機能の強化が求められており、本拠点ではIRを推進する専門家（IRer）を養成するための講座を隔年で開講している。

IRer（インスティテューショナル・リサーチャー：IR推進の専門家）とは

教学に関わる様々なデータ（各種調査や教務データ等）に基づき、組織的に教育改革・改善を行うことができる専門家。

※本拠点におけるIRとは、特に教育・学生支援に関するIR「教学IR」を指します。

■ 10月14日（金）～16日（日）開催 IRer養成講座

今年度は、3日間にわたり名古屋で「IRer養成講座」を開催し、関東、中部を中心に全国から35名の教職員の参加があった。参加者は、IRerに必要とされる基本的な知識や質的・量的データの分析方法等の具体的なスキルを習得し、さらに、分析結果をもとにした改善策の提案や発表までの一連のプロセスを踏んで理解を深めた。参加者からは、「IRの捉え方と具体的な分析手法を理解することができた」等、高い評価をいただくとともに、参加者間の交流を通じて刺激を受けることができたとして好評を得た。



【事後アンケート結果】

- ①研修は全体的に満足できるものだった。 97.1%（そう思う＋どちらかと言えばそう思う）
- ②知識やスキルを身につけることができた。 97.1%（そう思う＋どちらかと言えばそう思う）

【参加者からの声】

- ・ IRの活動の一連のプロセスを理解できた。学びたいスキルが身についた。
- ・ 分析手法等即戦力となる内容であった。
- ・ 具体的な事例に沿って、実務に活きる実習があり良かった。
- ・ 自大学（自身）の課題がより明確になった。
- ・ 多くの方々のIRに対する考えを伺えた。

教職員能力開発拠点事業

in 名古屋

SDコーディネーター養成講座 & IRer養成講座

2016. 10. 14 FRI → 16 SUN

会場／椋山女学園大学 星が丘キャンパス
(名古屋市千種区星が丘元町17番3号)

参加費／無料

主催／愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室
(教職員能力開発拠点)

共催／椋山女学園大学

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室(教職員能力開発拠点)は、全国の高等教育機関の発展のため、FD/SD/IRの専門家・実践的指導者の養成に取り組んでいます。全国拠点としてこれまで東北、関東、関西、九州地区で各種講座を開催してきましたが、今回は初めて中部地区(名古屋市)で開催します。全国の皆様のご参加をお待ちしております。



SDコーディネーター養成講座

■参加対象者

SDを担当する教職員

SDコーディネーターに関心のある教職員

※3日間の参加が可能な方のみとなります。
全プログラムの受講者には修了証をお渡しします。
※民間企業等に勤務されている方の参加はお断りしております。
※多くの機関の方々にご参加いただくため、同一機関からの申し込みが多数の場合は、全体のお申し込み状況により受講を制限させていただきますことがあります。

先着
30名

IRer養成講座

■参加対象者

IRを担当する教職員

IRに関心のある教職員

※3日間の参加が可能な方のみとなります。
全プログラムの受講者には修了証をお渡しします。
※民間企業等に勤務されている方の参加はお断りしております。
※多くの機関の方々にご参加いただくため、同一機関からの申し込みが多数の場合は、全体のお申し込み状況により受講を制限させていただきますことがあります。

先着
40名

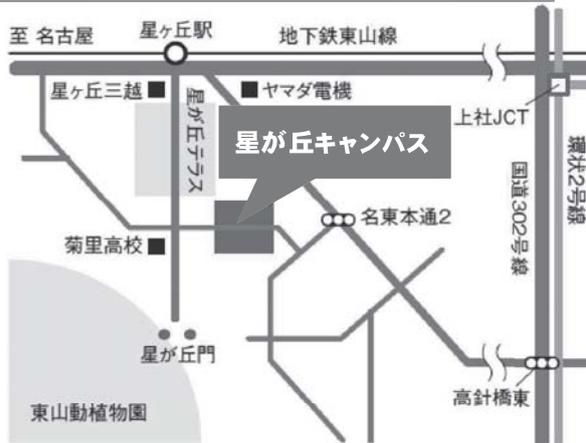
<http://web.opar.ehime-u.ac.jp/>

講師

	<p>SDC・IRer養成講座</p>  <p>小林 直人 (教職員能力開発拠点代表) 愛媛大学学長特別補佐 教育企画室長・教授</p>	<p>SDC・IRer養成講座</p>  <p>中井 俊樹 愛媛大学教育企画室 副室長・教授</p>	<p>SDC養成講座</p>  <p>丸山 智子 愛媛大学教育企画室 特任助教 (SDC)</p>	<p>SDC養成講座</p>  <p>吉田 一恵 愛媛大学 教育学生支援部長 (SDC)</p>
<p>SDC養成講座</p>  <p>久保 秀二 愛媛大学総務部 人事課副課長 (SPOD-SDC)</p>	<p>SDC養成講座</p>  <p>榊原 暢久 芝浦工業大学 教育イノベーション推進センター 工学部 教授</p>	<p>SDC養成講座</p>  <p>近藤 智彦 愛知大学 豊橋事務部長</p>	<p>SDC養成講座</p>  <p>一ノ瀬 大一 九州産業大学 教務部教務第二係長</p>	<p>IRer養成講座</p>  <p>清水 栄子 愛媛大学教育企画室 講師 (SDC)</p>
<p>IRer養成講座</p>  <p>小林 忠資 愛媛大学教育企画室 特任助教</p>	<p>IRer養成講座</p>  <p>加地 真弥 愛媛大学教育企画室 特定研究員</p>	<p>IRer養成講座</p>  <p>中山 晃 愛媛大学 英語教育センター准教授</p>	<p>IRer養成講座</p>  <p>杉田 郁代 高知大学 大学教育創造センター 特任准教授</p>	<p>IRer養成講座</p>  <p>西出 崇 京都外国語大学 総合企画室IR推進グループ 外国語学部 講師</p>

会場アクセス 椋山女学園大学 星が丘キャンパス

地下鉄東山線「星ヶ丘」下車，6番出口より徒歩5分



※星が丘キャンスマップ: <http://www.sugiyama-u.ac.jp/univ/campus/map/hoshigaoka/>

教職員能力開発拠点 (愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室)

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室は、平成22年3月に文部科学大臣から教育関係共同利用拠点(拠点名称:教職員能力開発拠点)に認定され(認定期間5年)、平成26年7月には、さらに5年間の再認定を受けました。教職員能力開発拠点では、FD/SD/IRの専門性の高い指導者の育成、長期的なコンサルティングを通じた各組織の自律的な教育改善の支援を始め、研修講師の派遣や独自で開発したFD/SD研修プログラムの提供など、幅広い取組を行っています。

お問い合わせ

愛媛大学教育学生支援部教育企画課
TEL : 089-927-9154
E-mail : kiyoiku@stu.ehime-u.ac.jp

SDコーディネーター養成講座

■実施目的: 職員の能力開発(SD)の実践的指導者(SDコーディネーター/SDC)になるため、その役割や求められる能力を理解し、実際のSD推進に活用できる具体的手法を身につけることを目的としています。

到達目標

- ① 人材育成ビジョンの必要性を説明することができる
- ② 自大学における人材育成ビジョンを策定するために、その構築手法を修得することができる
- ③ 自らのキャリアを開発するために、スタッフ・ポートフォリオ(SP)を作成することができる
- ④ 職員のキャリア開発を支援するために、メンタリングを行うことができる
- ⑤ SDの実践力を身につけるために、SDプログラムを企画・運営・評価することができる
- ⑥ SDに関する多様な考え方や経験を尊重し、共に学び合う雰囲気をつくること



スケジュール

[1日目] 10月14日(金)

- 12:30 受付 (相山人間交流会館1階キャリア教育推進ルーム)
13:00 (1) オープニング・アイスブレイク
※IRer養成講座と合同開催
13:30 会場移動 (教育学部棟3階C310室)
13:40 (2) オリエンテーション
(3) SD, SDCについて理解する [丸山智子]
14:15 (4) 人材育成ビジョンの必要性について理解する
[吉田一恵]
14:45 休憩
15:00 (5) 組織の人材育成ビジョン作成ワークショップ
[吉田一恵]
18:00 終了
18:30~20:30 情報交換会(参加任意/会費:4,000円)
※IRer養成講座と合同開催

[2日目] 10月15日(土)

- 9:30 (6) SP, メンタリングの導入事例及びその有効性
について [吉田一恵・久保秀二]
10:30 休憩
10:45 (7) 個人のビジョン作成ワークショップ [一ノ瀬大一]
12:00 休憩
13:00 (8) メンタリングを実践する [近藤智彦]
14:30 (9) SPOD-SD研修カリキュラム構築手法の紹介
[丸山智子]
15:00 休憩
15:15 (10) SDプログラムを企画する [中井俊樹]
(11) SDプログラムを運営する [中井俊樹]
16:45 休憩
17:00 (12) SDプログラムを評価する [榊原暢久]
18:00 終了

[3日目] 10月16日(日)

- 9:30 (13) SDプログラムを開発する [丸山智子]
12:00 休憩
13:00 (14) SDプログラム発表(ポスターセッション)
[全講師]
14:00 (15) 振り返り
14:20 会場移動 (相山人間交流会館1階キャリア教育推進ルーム)
14:30 (16) クロージング ※IRer養成講座と合同開催
15:00 終了

お申し込み

定員人数に到達次第、募集を締め切ります。
お早めにお申し込みください。

下記のサイトからお申し込みください。

<http://web.opar.ehime-u.ac.jp/>

■ 受付開始: 平成28年7月25日(月)正午

■ 申込締切: 平成28年8月17日(水)正午

※受付完了後、確認メールを送信します。

※いただいた情報は本講座以外に使用することはありません。

※ホームページから申し込みができない場合は、下記までメールでご連絡ください。

■ 宛先/kiyoiku@stu.ehime-u.ac.jp

■ メール件名/SDコーディネーター養成講座申込み(氏名〇〇〇)

先着
30名

事前課題

- ① スタッフ・ポートフォリオ ※受付完了後、様式をお送りします。
- ② 自大学で実施している『新任職員に対する研修』の実施要項(受講者間で共有可能なもの)をPDFデータ(A4用紙5枚まで)で提出してください。該当するものがない場合は、職員に対する何らかの研修の実施要項で結構です。
※資料の1枚目右上に、大学名及び氏名をご記入ください。

■ 提出期限/平成28年9月16日(金)

■ 提出先/kiyoiku@stu.ehime-u.ac.jp

持参物

事前課題で提出いただいたスタッフ・ポートフォリオ2部 (※研修会当日メンタリングを実施する際に使用します。)

IRer養成講座

■実施目的: IRの担当者として必要とされるIRに関する知識, データ分析および教育改善の提案に関わるスキルの習得を目指します。また, 参加者間でさまざまな工夫を共有することとおして, 参加者が自大学でも活用できる実践的な知識を身につけます。

到達目標

- ① IRの実践における指針を説明することができる
- ② 教育改善のための質的分析を行うことができる
- ③ 教育改善のための量的分析を行うことができる
- ④ 調査票の改善方法を提案することができる
- ⑤ データ分析を基に教育改善のための提案をすることができる
- ⑥ IRに関する多様な考えや経験を尊重し, 共に学び合う雰囲気をつくることのできる



スケジュール

[1日目] 10月14日(金)

- 12:30 受付 (榊山人間交流会館1階キャリア教育推進ルーム)
13:00 (1) オープニング・アイスブレイク
※SDC養成講座と合同開催
13:30 (2) オリエンテーション
13:40 (3) IRとIRの5つのステップを理解する [中井俊樹]
14:50 休憩
15:00 (4) 所属大学でのIRの実践を紹介する [清水栄子]
16:15 休憩
16:30 (5) 質的データを分析する [杉田郁代・加地真弥]
18:00 終了
18:30~20:30 情報交流会 (参加任意/会費:4,000円)
※SDC養成講座と合同開催

[2日目] 10月15日(土)

- 9:30 (6) 量的データを分析する
[中山晃・西出崇・清水栄子]
12:00 休憩
13:00 (7) 調査票を改善する [小林忠資]
15:30 休憩
15:45 (8) 教育改善の提案を考える①
[グループワーク]
18:00 終了

[3日目] 10月16日(日)

- 9:30 (9) 教育改善の提案を考える②
[グループワーク]
11:30 休憩
12:30 (10) 教育改善の提案をする
14:00 (11) 振り返り
14:30 (12) クロージング ※SDC養成講座と合同開催
15:00 終了

お申し込み

定員人数に到達次第, 募集を締め切ります。
お早めにお申し込みください。

下記のサイトからお申し込みください。

<http://web.opar.ehime-u.ac.jp/>

- 受付開始: 平成28年7月25日(月)正午
- 申込締切: 平成28年8月17日(水)正午

※受付完了後, 確認メールを送信します。

※いただいた情報は本講座以外に使用することはありません。

※ホームページから申し込みができない場合は, 下記までメールでご連絡ください。

- 宛先/kiyoiuku@stu.ehime-u.ac.jp
- メール件名/IRer養成講座申込み(氏名〇〇〇)

先着
40名

事前課題

- ① 自大学の全学(または学部)レベルの学生実態調査, 授業評価アンケート等の実施概要, 調査結果などを簡潔にまとめたものをご提出ください。(A4用紙3枚程度まで・様式は自由)
- ② 提出可能な方は, 自大学の学生調査等のアンケート調査票を提出してください。

※提出いただいた資料は参加者に配付し共有します。
※各資料の1枚目右上に, 大学名及び氏名をご記入ください。

■提出期限/平成28年9月16日(金)

■提出先/kiyoiuku@stu.ehime-u.ac.jp

持参物

2日目午前の研修(6)でデータ分析の演習を行いますので, ノートパソコンをご持参ください。
※会場の都合上, 充電済みのものをご持参いただきますよう, ご協力をお願いします。

② 研修プログラム及び教材の提供

第2期の基本方針に基づき、18本のFD/SD研修プログラムを提供した（各プログラムの詳細は、P.21～39を参照）。今年度のプログラム参加者総数は318名であり、全てのプログラムにおいて事後アンケート回答者の90%以上が「満足」と回答した（平成29年2月末現在）。

（本拠点の研修プログラムの特徴）

1. FD/SD/IRの専門家・実践的指導者になりうる人材の育成に力を入れている。
2. FD/SD/IRの各種プログラムを実施している。
3. 新人からベテラン、リーダーまであらゆる立場の教職員にとって日々の業務改善につながる実践的な内容である。
4. 数多くのプログラムは、講義形式だけでなく、講師と受講者の間で行う対話形式や、受講者間のディスカッションによるワークショップ形式等の双方向型で実施されている。

本拠点では自大学において教育改善を推進できる人材の育成に努めており、若手教職員を対象に“次世代”のリーダーとなるために必要な知識を学ぶ機会として「大学マネジメントセミナー 次世代リーダーを目指して」を愛媛大学及び香川大学を会場として全2回開催した。セミナーには、講師として高等教育分野の第一人者をお招きし、大学マネジメントに関する高等教育政策や高等教育戦略等に関する知識・理論についてご講演いただいた。

【参加者からの声】

- ・高等教育の歴史を考えることは、現在の大学のあり方を考えるきっかけとなった。
- ・米国の教育に対する歴史や日本との関連についてよくわかった。
- ・大学を実際に運営されている方の色々な話を聞いたのが良かった。

また、7月9日（土）～10日（日）に「ティーチング・ポートフォリオ（TP）作成ワークショップ」を愛媛大学で開催し、13名の教員がメンタリングを受けながら実際にTPを作成した。受講者からは「TPを作成する事でこれまでの自分を振り返り、今後の課題が見つかった」、「メンターからのアドバイスが参考となり、メンターの重要さがわかった」等の感想が寄せられ、TP及びメンターの意義を実感していただけた。

さらに、11月26日（土）～27日（日）の2日間にわたって「スタッフ・ポートフォリオ（SP）作成ワークショップ」を愛媛大学で開催し、全国から職員11名の参加があった。参加者はSPについての理解を深め、メンタリングを通して自身を振り返り、キャリアビジョンを明確にしながらSPを作成した。事後アンケートでは受講者全員が「SPを作成してよかった」と回答し、「自らを振り返ることで気付く点が多かった」と好評であった。

教材の提供に関しては、教育企画室が開発したオリジナル教材等を教育企画室のホームページに掲載し、非営利目的で活用いただけるようにしている。今年度は6,100件以上のアクセスがあった（平成29年2月末現在）。

教職員能力開発拠点が提供する研修プログラム(平成28年度)

平成29年2月末現在

日程	プログラム名	対象	受講者数	満足度	
1 4月5日(火)	学生の学びやすさと学習意欲を高める授業設計－課題分析図の活用－	FD/SD	3	100	
2 4月5日(火)	アクティブラーニング入門セミナー	FD/SD	7	100	
3 4月6日(水)	学習評価の基本	FD	6	100	
4 5月27日(金)～28日(土)	大学マネジメントセミナー(第1回)	高等教育政策論	FD/SD	27	92
		大学行政管理論(日米比較)	FD/SD	26	100
5 7月2日(土)～3日(日)	第26回授業デザインワークショップ	FD	17	100	
6 7月8日(金)	ティーチング・ポートフォリオ更新ワークショップ	FD	2	100	
7 7月9日(土)～10日(日)	ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ	FD	13	100	
8 7月22日(金)～23日(土)	大学マネジメントセミナー(第2回)	高等教育史	FD/SD	23	90.9
		高等教育戦略論	FD/SD	23	100
9 8月19日(金)	ルーブリック評価入門	FD/SD	7	100	
10 8月19日(金)	講義のための話し方入門	FD/SD	39	91.4	
11 9月12日(月)	効果的なeラーニング活用方法(超入門編)	FD	3	100	
12 9月13日(火)	学習者の学習意欲を高める授業設計を行うためのインストラクショナル・デザイン(ID)入門 －ARCS動機づけモデルの活用－	FD/SD	5	100	
13 10月14日(金)～16日(日)	SDコーディネーター養成講座 in 名古屋	SD	16	100	
14 10月14日(金)～16日(日)	IRer養成講座 in 名古屋	FD/SD	35	97.1	
15 11月26日(土)～27日(日)	スタッフ・ポートフォリオ作成ワークショップ	SD	11	100	
16 12月15日(木)	学生の授業時間外学習を促すシラバス作成法	FD/SD	47	100	
17 2月11日(土)～12日(日)	SDC養成講座フォローアップセミナー in 東京	SD	8	100	
18 3月15日(水)	愛媛大学教育改革シンポジウム	FD/SD	実施予定		
合計			318	94.2	

【FD/SD】

学生の学びやすさと学習意欲を高める授業設計 — 課題分析図の活用 —

【実施概要】

▶講師

仲道雅輝(愛媛大学総合情報メディアセンター
兼教育企画室)

▶日時

平成28年4月5日(火) 10:00~12:00

▶場所

愛媛大学城北キャンパス
愛大ミュージズ1階アクティブ・ラーニングスペース2

▶参加者

3名[学内3名・学外0名]

▶目標

1. 学習目標を行動目標として明確に表現できる。
2. 自身の教授内容の課題分析図が作成できる。
3. 課題分析の結果をもとに、授業構成の改善案を立てることができる。

▶内容

学生の学びやすさと学習意欲を高めるために、いくつかのID(インストラクショナル・デザイン)理論を用いて授業設計の手法を学びます。学習意欲は、学びやすさによって維持・促進され、動機づけによって高めることができます。学びやすさや意欲を設計するためには、教員が自身の教授内容を明確にし、学生目線で再構築する作業が必要です。その第一段階として、学生に対して「この授業で何ができるようになるればよいのか」が具体的に伝わる学習目標を提示します。次に、教員の頭にある既に構成された教授内容を一旦分解します。

これを課題分析といい、分解した学習要素をより学びやすく、意欲の向上に効果的な学習順序になるよう再構築します。

本プログラムでは、課題分析のワークを通して、これからの授業改善に役立つヒントを持ち帰っていただけます。

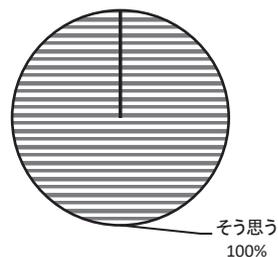


【アンケート結果】

▶回答者(回答率)

3名(100%)

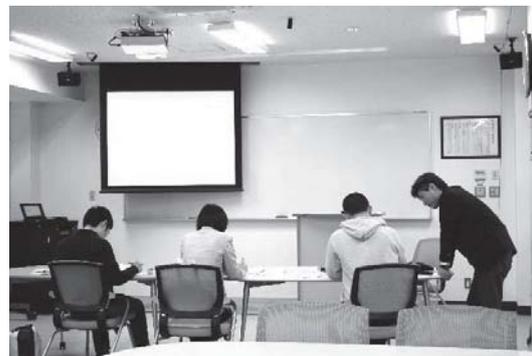
▶満足度: 全体的に満足できるものだった



▶コメント

〔この研修の良かった点〕

- 学習目標の設定の仕方は、日常の業務や生活でも応用できるもので、大変役に立ちました。
- 実際に課題分析を行うことで、授業の課題が明確になった。
- 共通教育授業の構成で練っている途中だったので、具体的に役立つ内容であった。



アクティブラーニング入門セミナー

【実施概要】

▶講師

中井俊樹, 小林忠資(愛媛大学教育企画室)

▶日時

平成28年4月5日(火) 13:00~15:00

▶場所

愛媛大学城北キャンパス
愛大ミュージアム1階アクティブ・ラーニングスペース2

▶参加者

- ・愛媛大学会場7名[学内7名・学外0名]
- ・遠隔システム 0名

▶目標

1. アクティブラーニングが必要な理由を述べることができる。
2. アクティブラーニングの教育手法のメリット・デメリットを具体的に説明できる。
3. 自ら担当する授業で活用できそうなアクティブラーニングの教育手法を挙げる。
4. アクティブラーニングの教育手法を実践することができる。

▶内容

1. 意義ある学習とは
2. アクティブラーニングとは
3. 期待される効果
4. 説明, 発問, 指示
5. さまざまなアクティブラーニングの技法
6. 学習課題の組み立て方
7. アクティブラーニングの課題



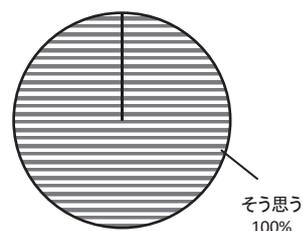
【アンケート結果】

▶回答者(回答率)

愛媛大学会場 7名(100.0%)

▶満足度: 全体的に満足できるものだった

愛媛大学会場



▶コメント

- 〔この研修の良かった点〕
- このセミナー自体がアクティブラーニングを促進するような形式になっていて、積極的に楽しみながら学ぶ事ができました。
 - 実践や議論があったので、自分だけでなく、他の人の意見も参考にすることができた。
 - アクティブラーニングの概略を知る事ができてよかった。「研究」もアクティブラーニングの一つに活用できると知り、今後の学生の研究指導に役立てて行きたいと思う。
 - リラックスした雰囲気に参加しやすい。実用的なことが学べた。



学習評価の基本

【実施概要】

▶講師

中井俊樹(愛媛大学教育企画室)

▶日時

平成28年4月6日(水) 10:00~12:00

▶場所

愛媛大学城北キャンパス
愛大ミュージアム1階アクティブ・ラーニングスペース2

▶参加者

6名[学内6名・学外0名]

▶目標

1. 学習評価の意義と目的を説明することができる。
2. 到達目標にあわせた評価の方法・基準を選択・設定できる。
3. 適切で効果的なフィードバックを行うことができる。
4. 公正で厳密な成績評価を行うことができる。

▶内容

1. 学習評価の目的
2. 学習評価の主体
3. 学習評価の対象
4. 学習評価の基準
5. 学習評価の方法
6. 優れた評価の条件
7. 評価のさまざまな側面

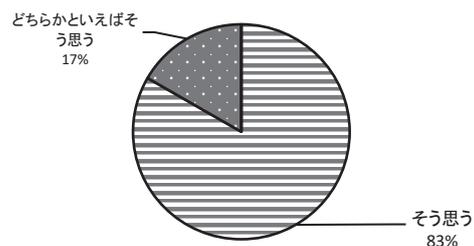


【アンケート結果】

▶回答者(回答率)

6名(100.0%)

▶満足度: 全体的に満足できるものだった



▶コメント

【この研修の良かった点】

- 学習評価についての概略を知る事ができ、また自身が担当させていただく講義の評価法についても改善が見えたので、良かったと思う。
- 質問が随時できてよかった。
- 一通り、評価に必要な知識を得ることができ、具体例も聞けて面白かった。

【この研修の改善点】

- 具体例をもう少し入れるとさらによい。



大学マネジメントセミナー(第1回)

【実施概要】

▶講師

- ①山本眞一 (桜美林大学大学院)
- ②船戸高樹 (山梨学院大学)

▶日時

平成28年5月27日(金)～5月28日(土)

▶場所

愛媛大学城北キャンパス
本部棟5階会議室

▶参加者

①高等教育政策論

27名[学内9名・学外18名_今治明德短期大学(1), 大阪経済大学(1), 大阪商業大学(1), 神奈川工科大学(1), 関西学院大学(1), 高知大学(3), 聖カタリナ大学(1), 創価大学(1), 中京大学(1), 徳島大学(1), 徳島文理大学(1), 鳴門教育大学(1), 福岡工業大学(2), 松山大学(2)]

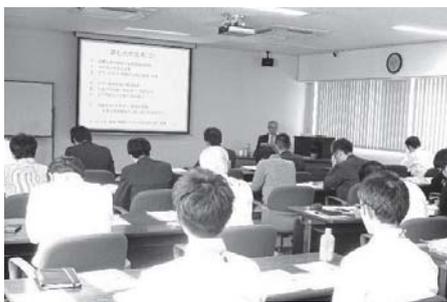
②大学行政理論(日米比較)

26名[学内5名・学外21名_大阪経済大学(1), 大阪商業大学(1), 香川大学(1), 神奈川工科大学(1), 関西学院大学(1), 京都女子大学(1), 高知大学(3), 聖カタリナ大学(1), 創価大学(1), 中京大学(1), 徳島大学(2), 徳島文理大学(1), 鳴門教育大学(1), 福岡工業大学(2), 松山大学(3)]

▶内容

テーマ 高等教育の現状を知る

1. 開会・挨拶
2. 講演 I
「高等教育政策論
～大学を取り巻く環境の変化と、これからの大学改革～」
3. 講演 II
「大学行政理論(日米比較)
～システムでなく、精神を学ぶ～」



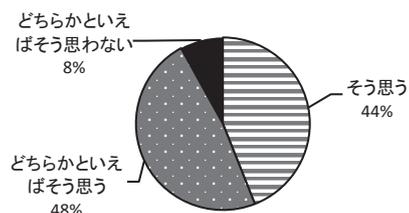
【アンケート結果】

▶回答者(回答率)

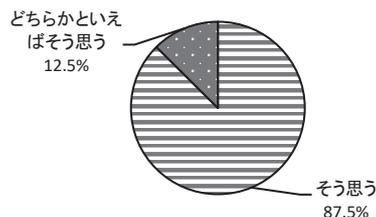
- ①高等教育政策論 25名(92.6%)
- ②大学行政理論(日米比較) 25名(96.2%)

▶満足度: 全体的に満足できるものだった

①高等教育政策論



②大学行政理論(日米比較)



▶コメント

①高等教育政策論

【この研修の良かった点】

- データや国の施策に対し、それらを読むだけでは分からないような部分を解釈していただけて分かりやすかった。
- 現在の大学を取り巻く環境や、大学職員の目指すべき姿について改めて意識付けをすることができた。

【この研修の改善点】

- 離れたキャンパスの職員でも聴講できるようなネット配信があればいいのではと思った。

②大学行政理論(日米比較)

【この研修の良かった点】

- 本来なら長い時間をかけて学ぶべき日米比較分野について、要点をまとめて簡潔にご説明いただけたのが良かった。今回のセミナーで興味を持った範囲に対して、今後自分自身で個別に掘り下げて学んでいこうと思う。
- 歴史の裏にある背景を知ること、現在地を考える視点が発見だった。自大学の変遷を意識することで仕事のやり方、考え方が変わると思った。

【この研修の改善点】

- アメリカに関するウエイトが高かったと思うので、もう少し日本についても触れていただきたかった。

第26回授業デザインワークショップ

【実施概要】

▶講師

小林直人, 中井俊樹, 清水栄子, 村田晋也, 小林忠資
加地真弥(愛媛大学教育企画室),
仲道雅輝(愛媛大学総合情報メディアセンター兼教育企画室)

▶日時

平成28年7月2日(土)~3日(日)

▶場所

いまばり湯ノ浦ハイツ

▶参加者

17名[学内11名・学外6名_徳島文理大学(3), 聖カタリナ大学
(1), 今治明德短期大学(1), 新居浜工業高等専門学校(1)]

▶目標

1. 適切な目的・目標設定ができるようになる。
2. わかりやすいシラバスを書けるようになる。
3. 様々な授業方法を知り, 目的・目標にあった方法を選択できるようになる。
4. 様々な成績評価方法を知り, 目的・目標にあった方法を選択できるようになる。
5. 学生参加型のグループ作業を, 自らの授業で導入することができるようになる。

▶内容

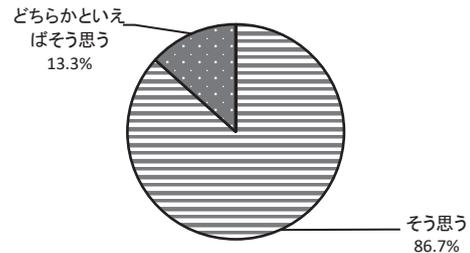
1. オリエンテーション
2. アイスブレイキング
3. 講義「何が学生の学びを促進するのか？」
4. 講義「シラバスの書き方」
5. 講義「コース設計&クラス設計の考え方」
6. グループワーク「共通教育科目の開発Ⅰ」
7. 講義「様々な授業方法」
8. グループワーク「共通教育科目の開発Ⅱ」
9. 講義「学習評価の基本」
10. 中間発表
11. 講義「クラス設計」
12. グループワーク「共通教育科目の開発Ⅲ」
13. グループワーク「共通教育科目の開発Ⅳ」
14. 模擬授業
15. 閉会式

【アンケート結果】

▶回答者(回答率)

15名(88.2%)

▶満足度: 全体的に満足できるものだった



▶コメント

- [この研修であなたが学んだ点, それに影響されて教育実践の場でやってみたい点]
- シラバスを学生が読んで理解していることを前提に講義を行っていたが, 今後は最初の講義で年間計画を学生に説明し, 学生が学びの段階と到達目標を知ることで知識取得の意欲を刺激したい。
 - 昨年秋に担当して, 今年も担当する予定の90分の授業計画を再構築し, 学生参加型を盛り込んだものにして実施してみたい。

[この研修の改善点, 感想]

- このワークショップがFD研修の導入であると思うので, 次にどうしたらよいか, どのような研修を受けていったほうがよいのか, ガイド(導き)があると助かると思った。
- 本研修会での講義および先生方との交流を通じて, 教員としての在り方を垣間見ることができ, 非常に有意義な時間を過ごさせていただけたこと心より感謝いたします。



【FD】

ティーチング・ポートフォリオ更新ワークショップ

【実施概要】

▶講師

清水栄子(愛媛大学教育企画室)

▶日時

平成28年7月8日(金) 10:00～16:30

▶場所

愛媛大学城北キャンパス
愛大ミュージズ1階アクティブラーニングスペース2

▶参加者

2名[学内0名・学外2名_高知県立大学(1), 新居浜工業高等
専門学校(1)]

▶目的

すでに作成したティーチング・ポートフォリオ(TP)を更新する。
また、メンターに必要なメンタリングスキルについて学ぶ。

▶内容

ティーチング・ポートフォリオ(TP)の作成に終わりはありません。今回はTPの更新を目的として6時間30分のワークショップを実施し、参加者と一緒に、より良いTPの作成を行います。

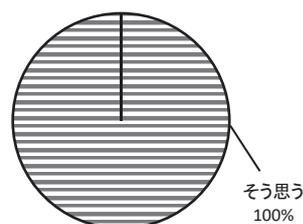
1. オリエンテーション 全体説明・TPについてのおさらい
2. メンタリング・セッション(2人1組)
 - ・相互のTPを読む
 - ・相互のメンタリング
3. ランチタイム
 - ・更新予定発表(全体)
4. 更新タイム(個人)
5. メンタリングに関するディスカッション(全体)
6. 更新タイム(個人)
7. TP更新の感想と振り返り(全体)

【アンケート結果】

▶回答者(回答率)

2名(100.0%)

▶満足度:全体的に満足できるものだった



▶コメント

【この研修の良かった点】

- 少人数で中身の濃い研修であった。
- 参加する前に感じていた改善点とはまったく異なる改善点が見出せた。

【この研修の改善点】

- ある程度信頼していたからであるが、こまめに見た方が良かったかもしれない。
- 少人数でも開催していただいで助かります。ホントはもう少し参加者が多い方がいいのでしょうか…。



ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ

【実施概要】

▶講師

坪井泰士, 笹田修司, 奥本良博(阿南工業高等専門学校)
久保田祐歌(徳島大学)
中山晃, 長崎睦子, KAWAMOTO JULIA MIKA
(愛媛大学英語教育センター)
小林直人, 清水栄子(愛媛大学教育企画室)

▶日時

平成28年7月9日(土)~10日(日)

▶場所

愛媛大学城北キャンパス 愛大ミュージ
【オリエンテーション・TP作成作業等】
3階M32番教室
【個人ミーティング】
1階アクティブラーニングスペース1, 2, 3 等

▶参加者

13名[学内11名・学外2名_松山東雲女子大学(1), 松山短期
大学(1)]

▶目的

1. ティーチング・ポートフォリオ(TP)とは何かを理解する。
2. TPの必要性・有効性について知る。
3. TP作成の要点と手順を理解する。
4. TPを作成する。

▶内容

2日間を通しての参加となります。メンターによるメンタリングを行いながら作成します。

<1日目>

1. オリエンテーション
 2. 昼食会
 3. 意見交換
 4. メンタリング
 5. TP作成作業
- 情報交換会(任意)

<2日目>

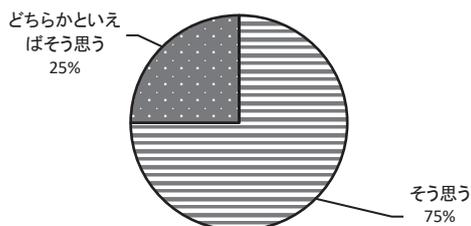
1. TP作成作業
2. メンタリング
3. 昼食会・意見交換
4. TP作成作業
5. TP披露・修了式

【アンケート結果】

▶回答者(回答率)

8名(61.5%)

▶満足度: 全体的に満足できるものだった



▶コメント

〔この研修の良かった点〕

- 今まで漠然としていた自分自身の教育の理念を明確化する機会となり、「自分の教育理念はこれで、その実現のための方法はこれです」と自信を持って言えるようになった。
- 他の学部や学校の先生方の教育理念や方法をプレゼンテーションの中で知ることができ、今まで教育内容をよく知らなかった学部の教育目標や理念を知ることができ、他学部の理解を深めることができた。
- ティーチング・ポートフォリオ作成以外にも、メンターが授業運営のことでアドバイスをくださったこと。
- 昼食や情報交換会、休憩時間などにおいて、他大学、他の専門領域の方々とコミュニケーションをとることができ、貴重な経験となった。

〔この研修の改善点〕

- ティーチング・ポートフォリオの作成という大きな目標があるため、やむを得ない部分はあるが、同じTPを作成する同僚たちと懇談する場(情報交換会以外に)が作業時間中にもう少しあると、いろいろなヒントを得られるかなと思った。
- TP披露は二つのグループで合わせて一緒に行ったらもっと良いと思う。



大学マネジメントセミナー(第2回)

【実施概要】

▶講師

- ①大津正知 (九州大学)
- ②池田輝政 (追手門学院大学)

▶日時

平成28年7月22日(金)～7月23日(土)

▶場所

香川大学幸町キャンパス
研究交流棟5階会議室・研究者交流スペース

▶参加者

①高等教育史

23名[学内2名・学外21名_香川大学(8), 関西学院大学(1), 高知大学(2), 神戸山手大学(1), 首都大学東京(1), 聖カタリナ大学(1), 中京大学(1), 徳島大学(2), 徳島文理大学(1), 鳴門教育大学(1), 松山大学(2)]

②高等教育戦略論

23名[学内1名・学外22名_香川大学(9), 関西学院大学(1), 高知大学(2), 神戸山手大学(1), 首都大学東京(1), 聖カタリナ大学(1), 中京大学(1), 徳島大学(2), 徳島文理大学(1), 鳴門教育大学(1), 松山大学(2)]

▶内容

テーマ 高等教育の現状を知る

1. 開会・挨拶
2. 講演Ⅰ
「高等教育史 ～大学の伝統から“今”を理解する～」
3. 講演Ⅱ
「高等教育戦略論
～現場から俯瞰する戦略的思考を楽しむ～」



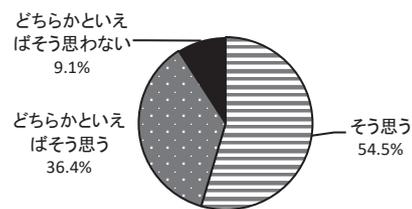
【アンケート結果】

▶回答者(回答率)

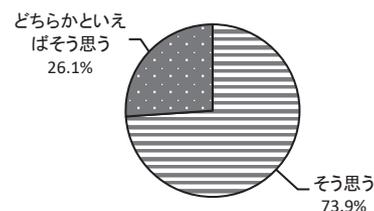
- ①高等教育史 23名(100%)
- ②高等教育戦略論 23名(100%)

▶満足度: 全体的に満足できるものだった

①高等教育史



②高等教育戦略論



▶コメント

①高等教育史

【この研修の良かった点】

- 大学の歴史は世の中の動きに影響を受け、大きく変化しているのが分かった。入試については、掘り下げて考えたことがなかったため、興味深かった。
- 単に歴史(事実)を学ぶだけでなく、それが社会、制度、法律、大学等の変化にどう関わっているのか見出すことで知識に奥行きが出ると感じた。

【この研修の改善点】

- 各項目のもう少し具体的な内容を聞きたい。

②高等教育戦略論

【この研修の良かった点】

- 経営側(学長補佐)の忌憚のない想いを大いにかがえた。
- 記者会見形式など、新鮮な講義だった。考え方もマインドマップの応用ができ、とても参考になった。
- 考え方が身についただけでなく、SDの手法も学ぶことが出来た。

【この研修の改善点】

- グループでのコミュニケーションができる時間がもう少しあれば良かったと思う。

ルーブリック評価入門

【実施概要】

▶講師

清水栄子(愛媛大学教育企画室)

▶日時

平成28年8月19日(金) 13:00~15:00

▶場所

愛媛大学城北キャンパス
愛大ミュージズ1階アクティブ・ラーニングスペース2

▶参加者

・愛媛大会会場7名[学内6名・学外1名_立命館大学(1)]

・遠隔システム 0名

▶目標

1. ルーブリック評価のメリットを説明することができる。
2. 自らの授業で活用できるルーブリックを作成する。
※ルーブリックとは、教育・学習成果の評価の厳密化と効率化を進めるために使われる評価ツールです。

▶内容

ルーブリックの作成手続きと様々な事例を紹介しながら、時間内に自らの授業で活用できるルーブリックを作成します。作成したルーブリックは、他者と共有することができます。

1. ルーブリックとは何か？
2. なぜルーブリックを使うのか？
3. ルーブリックをどうやって作成するか？

ルーブリック作成の4段階

第1段階: 振り返り

第2段階: リストの作成

第3段階: グループ化と見出し付け

第4段階: 表の作成

4. ルーブリック作成(個人ワーク)

5. ブラッシュアップ(ペアワーク)

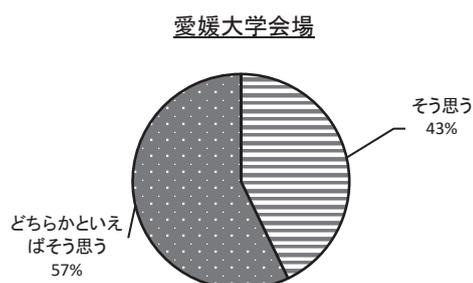


【アンケート結果】

▶回答者(回答率)

・愛媛大会会場 7名(100.0%)

▶満足度: 全体的に満足できるものだった



▶コメント

〔この研修の良かった点〕

- ルーブリックの作成のステップが分かって良かった。
- ルーブリックに関する参考図書など、情報の提示が良かった。ペアワークによって、ルーブリックの作成について理解できた。

〔この研修の改善点〕

- 個人作業が短いと思ったが、限られた時間の作業は集中でき、結果的に良かったと思う。
- フィードバックがほしい。

講義のための話し方入門

【実施概要】

▶講師

小林直人(愛媛大学教育企画室)
飯島永津子(愛媛大学医学部教育協力者)

▶日時

平成28年8月19日(金) 15:30~17:30

▶場所

愛媛大学城北キャンパス
愛大ミュージズ1階アクティブ・ラーニングスペース2

▶参加者

- ・愛媛大学会場5名[学内4名・学外1名 新居浜工業高等専門学校(1)]
- ・遠隔システム 34名[香川大学(3), 愛媛県立医療技術大学(3), 徳島工業短期大学(6), 四国大学(1), 徳島文理大学・短期大学部(21)]

▶目標

1. 「学生中心の大学」の実現のために“よい”授業ができるようになる。
⇒“良い”授業とは？
 - ・わかりやすい授業
 - ・知的な緊張感のある授業
 - ・学生が積極的に参加し自ら考える授業
2. 講義をするときに注意が必要な話し方のコツを、講習中の実習を通して習得し、習得したことを自分の授業に生かすことができる。

▶内容

1. イントロダクション
 - ・本日のメニュー ・本日の目的と目標
2. 講師が気をつけていること
 - ・学生にとってわかりやすい話し方とは？
 - ・どうしたらわかりやすい話し方ができるか？
 - ・発音しにくい言葉 ・区別しにくい言葉
3. 実例を元に演習
 - ・聞き手が理解しやすい話し方
 - ・どう話すか？の前に何を話すか？
4. 休憩とストレッチ
5. 外部講師(教育協力者)による発声練習
 - ・大きな声を出すためには？
 - ・はっきりと発音するためには？
6. まとめ・セルフアセスメント
 - ・あらためて、「良い」授業とは？
7. 質疑応答

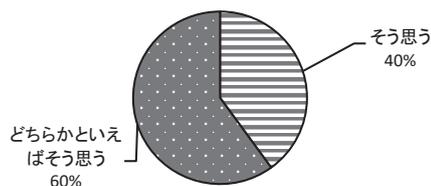
【アンケート結果】

▶回答者(回答率)

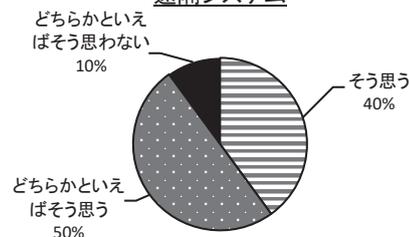
- ・愛媛大学会場 5名(100%)
- ・遠隔システム 30名(88.2%)

▶満足度: 全体的に満足できるものだった

愛媛大学会場



遠隔システム



▶コメント

〔この研修の良かった点〕

- 人に伝わるように話すときに、意識すべきこと、普段から気を付けるべきことがよくわかった。
- 後半の実技指導は、これからの講義等に役立つ内容でした。普段あまり経験しないことで、この研修ならではの内容だと感じました。(遠隔)
- 口、手、指を含めた細かい所作で学生に対する印象が違うということ。どのように違うのかを初めて知ったのが良かった。(遠隔)

〔この研修の改善点〕

- 後半はもっと時間を取った方がよいと思った。
- 遠隔配信で、ホワイトボードを利用するのであれば、そこもカメラを設置すべき。(遠隔)



効果的なeラーニング活用方法(超入門編)

【実施概要】

▶講師

仲道雅輝(愛媛大学総合情報メディアセンター
兼教育企画室)

▶日時

平成28年9月12日(月) 10:00~12:00

▶場所

愛媛大学城北キャンパス
愛大ミュージズ1階アクティブ・ラーニングスペース2

▶参加者

3名[学内2名・学外1名_香川大学(1)]

▶目標

1. eラーニングとは何か説明できる。
2. 実践事例からeラーニングを授業に取り入れる際の効果的なポイントが説明できる。
3. eラーニング要素を活用して自身の授業での課題解決に向けた対策を考えることができる。
4. 自身の授業で使えるようなヒントやアイデア等を一つ以上持ち帰ることができる。

▶内容

大学等において、学習効果を上げるための方法としてeラーニングが注目されています。本プログラムでは、「eラーニングを授業に取り入れてみたい」「有効な活用方法が知りたい」「自身の授業改善に役立てたい」「実はeラーニングとは何かがわからない」という方に対して、実際に授業で活用されている様々な事例を紹介するとともに、ワークショップ形式にて自身の授業で、どう活用できるかを探っていきます。

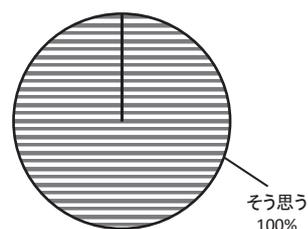
1. eラーニングとは
2. 広義・狭義のeラーニング
3. 実践事例の紹介
(動画教材・テスト機能・ディスカッション機能・課題提出機能(振り返り)等)
4. eラーニングを取り入れた授業計画案作成に向けて、グループワークによる検討を行う。

【アンケート結果】

▶回答者(回答率)

3名(100.0%)

▶満足度: 全体的に満足できるものだった



▶コメント

- 〔この研修の良かった点〕
- eラーニングについて、基本的な事柄を学ぶ事ができた。自分の授業に応用可能な知識をもらうことができた。
 - Moodleの概要が分かったこと。
 - 今後の授業内容の改善に具体的に使えるようなアイデアを得ることができた。



【FD/SD】

学習者の学習意欲を高める授業設計を行うためのインストラクショナル・デザイン(ID)入門 —ARCS 動機づけモデルの活用—

【実施概要】

▶講師

仲道雅輝(愛媛大学総合情報メディアセンター
兼教育企画室)

▶日時

平成28年9月13日(火) 13:00~15:00

▶場所

愛媛大学城北キャンパス
愛大ミュージアム1階アクティブ・ラーニングスペース2

▶参加者

5名[学内3名・学外2名_聖カタリナ大学(1), 聖カタリナ大学
短期大学部(1)]

▶目標

1. 「インストラクショナル・デザイン(ID / 教育設計)」が課題解決の方法論であることを説明できる。
2. 自分の授業を振り返り、到達目標を明確化するためのポイントが説明できる。
3. 学習者を動機づけるための一つの手法 (ARCS動機づけモデル) を活用し、授業設計のヒントを得ることができる。

▶内容

本プログラムでは、これまで自身が実施してきた教育に対する考え方や実施方法について見つめ直し、何が課題であるかについて考えるとところからはじめ、教育をより効果的・効率的・魅力的にするための方法論であるインストラクショナルデザイン(教育設計)(以下、IDという)の中から、学習者を動機づけるための手法 (ARCS動機づけモデル) や学習者の学びを支援するための働きかけに関する理論を事例とともに学び、ワークショップ形式にて課題解決策の糸口を探っていきます。

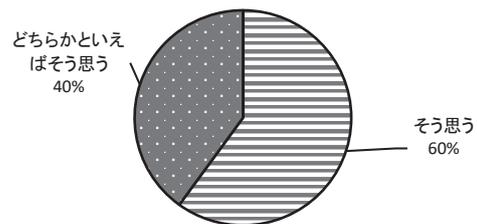


【アンケート結果】

▶回答者(回答率)

5名(100.0%)

▶満足度: 全体的に満足できるものだった



▶コメント

〔この研修の良かった点〕

○ARCSモデルについて学べたこと。

○講師の方や受講生の皆さんとの距離が近くてリラックスして受けられた。



【SD】

SDコーディネーター養成講座 in 名古屋 1/2

【実施概要】

▶講師

榊原暢久(芝浦工業大学)
近藤智彦(愛知大学)
一ノ瀬大一(九州産業大学)
小林直人, 中井俊樹, 丸山智子, 吉田一恵, 久保秀二
(愛媛大学)

▶日時

平成28年10月14日(金)～10月16日(日)

▶場所

椋山女学園大学 星が丘キャンパス
教育学部棟3階 椋山人間交流会館

▶参加者

16名[学内0名・学外16名_大垣女子短期大学(1), 大阪大学(1), 香川大学(1), 椋山女学園大学(3), 金沢星稜大学(1), 関西学院大学(1), 札幌学院大学(1), 芝浦工業大学(2), 東京音楽大学(1), 名古屋経済大学(1), 名古屋工業大学(1), 名古屋女子大学(1), 日本福祉大学(1)]

▶目標

1. 人材育成ビジョンの必要性を説明することができる
2. 自大学における人材育成ビジョンを策定するために、その構築手法を修得することができる
3. 自らのキャリアを開発するために、スタッフ・ポートフォリオ(SP)を作成することができる
4. 職員のキャリア開発を支援するために、メンタリングを行うことができる
5. SDの実践力を身につけるために、SDプログラムを企画・運営・評価することができる
6. SDに関する多様な考え方や経験を尊重し、共に学び合う雰囲気をつくることができる

▶内容

<1日目>

1. オープニング・アイスブレイク
 2. オリエンテーション
 3. 「SD, SDCについて理解する」
 4. 「人材育成ビジョンの必要性について理解する」
 5. 「組織の人材育成ビジョン作成ワークショップ」
- 情報交換会(任意)

<2日目>

6. 「SP, メンタリングの導入事例及びその有効性について」
7. 「個人のビジョン作成ワークショップ」
8. 「メンタリングを実践する」
9. 「SPOD-SD研修カリキュラム構築手法の紹介」
10. 「SDプログラムを企画する」
11. 「SDプログラムを運営する」
12. 「SDプログラムを評価する」

<3日目>

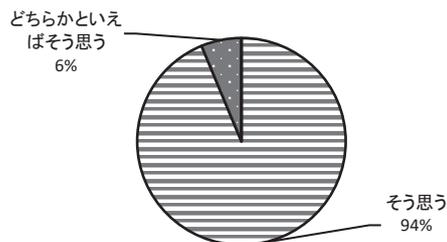
13. 「SDプログラムを開発する」
14. SDプログラム発表(ポスターセッション)
15. 振り返り
16. クロージング

【アンケート結果】

▶回答者(回答率)

16名(100%)

▶満足度: 全体的に満足できるものだった



▶コメント

[この研修の良かった点]

- SDの企画の仕方を具体的に学べたこと。各大学のSDの取組状況を知ることができたこと。
- 短期間でSDに関わる様々なアプローチを学ぶことができた。
- ファシリテーションを行うにもとても難しいことがわかった。明日からの業務に活かしていきたい。この学びをいかに学内に活かしていくかが次の課題であると思う。
- 人材育成のスキームが分かり、作り方が説明できるようになった。本務に活かせる知見が多数ありました。
- 職場の中で活用できるツールをいただきました。是非これを実践・賛同する仲間を増やしていきたいと考えています。
- 他大学へ人脈が広がった。

[この研修の改善点]

- 可能であれば、合宿形式で行うと時間を気にせず討論することができるのでは。
- 時間配分の再構築, ワークの時間を増やしていただきたい。



【SD】

SDコーディネーター養成講座 in 名古屋 2/2

【アンケート結果】

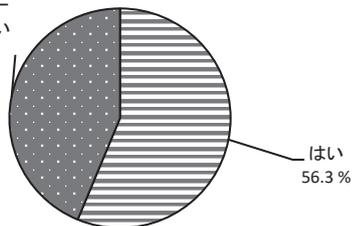
▶回答者(回答率)

16名(100%)

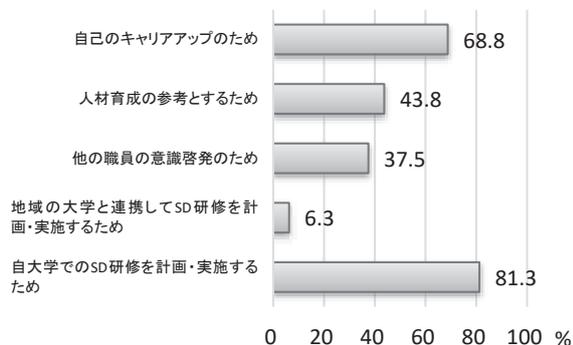
▶SDC資格取得について

- ・今後SDC資格取得を目指したいか

取得に向けてのサポートがあれば、目指したい
43.8%

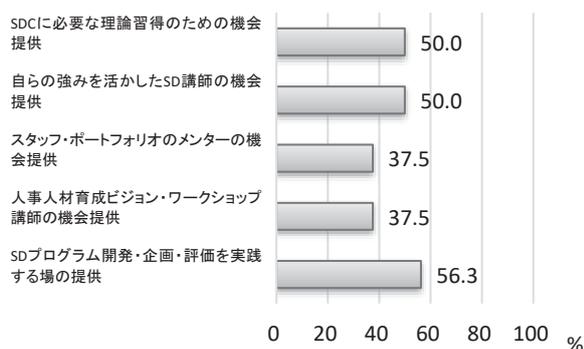


・SDCの認定を目指す理由 (複数選択可)



・SDC資格取得に向けて必要と感じるサポート

(複数選択可)



▶コメント

〔SDC資格取得について〕

- 是非取得したいので、講師機会を得られるサポートがあると嬉しい。
- 無料で開催で参加しやすく、とても助かった。今後も東海地方で引き続きこのような機会を頂いたり、東海地域のSDCの方が増えて、地方開催ができると良いと思う。



IRer養成講座 in 名古屋

【実施概要】

▶講師

杉田郁代(高知大学), 西出崇(京都外国語大学), 中山晃(愛媛大学英語教育センター), 小林直人, 中井俊樹, 清水栄子, 小林忠資, 加地真弥(愛媛大学教育企画室)

▶日時

平成28年10月14日(金)~10月16日(日)

▶場所

椋山女学園大学 星が丘キャンパス
教育学部棟3階 椋山人間交流会館

▶参加者

35名[学内0名・学外35名 愛知教育大学(1), 秋田県立大学(2), 大垣女子短期大学(1), 大阪商業大学(1), 北星学園大学(1), 椋山女学園大学(3), 学校法人追手門学院(1), 関西国際大学(1), 岐阜聖徳学園大学(1), 京都文教大学(1), 共立女子大学(1), 高知県立大学(1), 国際教養大学(1), 実践女子大学(1), 芝浦工業大学(2), 尚綱大学・尚綱大学短期大学部(1), 昭和女子大学(1), 創価大学(1), 千葉工業大学(1), 中京大学(1), 東海大学(1), 東洋大学(1), 名古屋学院大学(2), 名古屋経済大学(1), 藤田保健衛生大学(2), 福岡工業大学(1), 桃山学院大学(1), 横浜国立大学(1), 横浜商科大学(1)]

▶目標

1. IRの実践における指針を説明することができる
2. 教育改善のための質的分析を行うことができる
3. 教育改善のための量的分析を行うことができる
4. 調査票の改善方法を提案することができる
5. データ分析を基に教育改善のための提案をすることができる
6. IRIに関する多様な考えや経験を尊重し, 共に学び合う雰囲気をつくることができる

▶内容

[1日目]

1. オープニング・アイスブレイク
2. オリエンテーション
3. 「IRの意義と方法を理解する」
4. 「所属大学の取組を位置づける」
5. 「質的データを分析する」 情報交換会(任意)

[2日目]

6. 「量的データを分析する」
7. 「分析結果をもとに改善策を提案する」

[3日目]

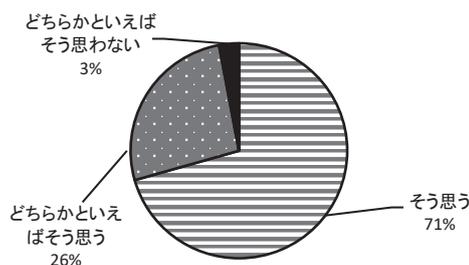
8. グループワークと発表
9. 振り返り
10. クロージング

【アンケート結果】

▶回答者(回答率)

34名(97.1%)

▶満足度: 全体的に満足できるものだった



▶コメント

【この研修の良かった点】

- IRの意識や心構えから分析ツールの紹介, 分析例, 分析に実践というようにステップを踏んでIRerの業務を理解できた。
- 量的データだけでなく, 質的データの分析手法を学べたこと。
- 実践で役立つ知識・スキルを学ぶことができて良かった。
- 実際に分析から提案発表までグループワークできたこと。
- 他大学の教職員と関わり, 刺激を受けることができた。

【この研修の改善点】

- 基本的なところから説明してもらえる一方で, あまり一般的でないと思われる言葉や概念が, しっかり説明されないまま使われて, わかりにくいところがあった。
- 最後のグループによる報告, 提案づくりは, もう少し課題の範囲を絞るか, 時間をもっと取る方が, 深めていくために良いと思う。
- 開催を重ねていただき, 受講者層を増やしてほしい。



スタッフ・ポートフォリオ作成ワークショップ

【実施概要】

▶講師

野口里美(香川大学)
小林直人, 中井俊樹, 阿部光伸, 清水栄子, 丸山智子,
吉田一恵, 西尾澄気(愛媛大学)

▶日時

平成28年11月26日(土)～11月27日(日)

▶場所

愛媛大学城北キャンパス
愛大ミュージズ1階アクティブラーニングスペース2 等

▶参加者

11名[学内0名・学外11名_大阪経済大学(1), 大阪産業大学
(1), 大谷大学(1), 埼玉大学(1), 芝浦工業大学(1), 聖カ
タリナ大学(1), 中京大学(1), 東邦音楽大学(1), 徳島大
学(2), 広島商船高等専門学校(1)]

▶目標

1. スタッフ・ポートフォリオのメリットについて説明できる。
2. スタッフ・ポートフォリオにおけるメンター、メンタリングの重要性について説明できる。
3. 自身のキャリアを振り返ることができる。
4. 自身のキャリアのビジョンについて考えることができる。
5. スタッフ・ポートフォリオを作成することができる。

▶内容

[1日目]

1. オープニング
2. 【レクチャーⅠ】「スタッフ・ポートフォリオ(SP)について」
「SPを作成することのメリット、組織にとってのメリットについて」
3. 【ワークショップⅠ】「職員としてのキャリアの振り返り～
なぜ大学職員になったのですか?～」
4. 個人メンタリング
5. SP作成作業
6. メンターとメンティーで振り返り
7. 情報交換会(任意)

[2日目]

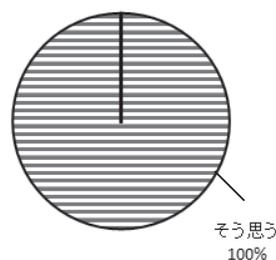
1. 【レクチャーⅡ】「スタッフ・ポートフォリオにおける
メンター・メンタリングについて」
2. SP作成作業
3. 個人メンタリング
4. ランチタイム
5. SP作成作業 & 発表資料準備
6. 参加者全員でSP作成の振り返り
7. クロージング

【アンケート結果】

▶回答者(回答率)

11名(100%)

▶満足度: スタッフ・ポートフォリオを作成してよかった



▶コメント

【この研修の良かった点】

- 過去の業績等を振り返り、自分のキャリアプランを構築することができた点。
- 過去を振り返るとともに、これまでの業績等を改めて整理することができた。
- メンタリングにより自分の気付けない点を気付かせていただいた結果、自分自身を振り返ることができて有意義であった。

【この研修の改善点】

- 各項目について具体的な内容を書き出すことについて、なかなか言葉に表すことが難しかった。
- 意外に自分のことがよく分かっておらず、人に聞いて初めて出てくるので、メンターは重要だと思った。



【 FD/SD 】

学生の授業時間外学習を促すシラバス作成法

【実施概要】

▶講師

仲道雅輝(愛媛大学総合情報メディアセンター
兼教育企画室)

▶日時

平成28年12月15日(木) 10:00~12:00

▶場所

愛媛大学城北キャンパス
愛大ミュージズ1階アクティブ・ラーニングスペース2

▶参加者

- ・愛媛大学会場 6名[学内3名・学外3名_松山東雲女子大学(2), 松山東雲短期大学(1)]
- ・e-learning 41名[学内12名・学外29名_今治明德短期大学(4), 香川県立保健医療大学(9), 高知大学(2), 高知県立大学(3), 徳島文理大学(4), 新居浜工業高等専門学校(5), 松山東雲女子大学(1), 松山東雲短期大学(1)]

▶目標

1. シラバスの役割を説明できる。
2. 授業の「目的」と「目標」との違いを説明できる。
3. 適切な「目的」と「目標」を書くことができる。
4. 学習者が自学自習に励むようなシラバスを書くことができるようになる。

▶内容

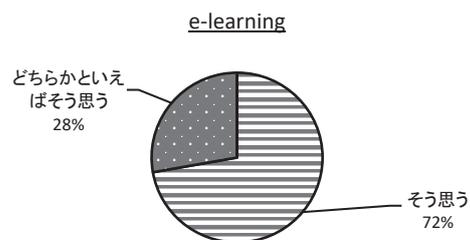
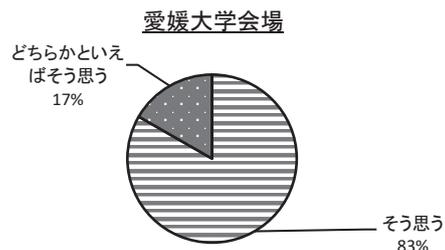
1. 授業デザインの考え方
2. シラバスとは何か?
 - ・定義
3. 授業題目・キーワードの書き方
 - ・わかりやすく書く
4. 目的の書き方
 - ・授業の目的の書き方
5. 目標の書き方
 - ・到達目標の書き方
6. 授業内容・スケジュールの書き方
 - ・無理のない進み具合
7. 授業時間外での学習を促す戦略
 - ・外発的・内発的動機づけによる学習課題に取り組みさせるコツ
 - ・eラーニングを活用した課題への取り組みませ方
8. 受講条件の書き方
 - ・ニーズと授業内容のミスマッチ防止
9. 受講ルールの書き方
 - ・受講のマナー
10. 教材に関わる情報の書き方
11. 評価情報の書き方

【アンケート結果】

▶回答者(回答率)

愛媛大学会場 6名(100.0%)
e-learning 18名(43.9%)

▶満足度: 全体的に満足できるものだった



▶コメント

〔この研修の良かった点〕

- 目的や目標など具体的にどう書けばよいか、言葉が示されていて、参考になった。シラバスの内容以外にも授業の進め方など、ヒントをいただいた。
- スモールステップで講義が進められたため、空き時間を有効に使いながら受講できた。(e-learning)

〔この研修の改善点〕

- 話をしている時間(講義の時間)が少し長く感じて、集中力が切れる時間があった。
- 資料に書き込みながら受講したいので、資料が一括で印刷できればよかったと思う。(e-learning)



【SD】

SDC養成講座フォローアップセミナー in 東京

【実施概要】

▶講師

榊原暢久(芝浦工業大学)
丸山智子, 吉田一恵(愛媛大学)

▶日時

平成29年2月11日(土)～2月12日(日)

▶場所

タワーホール 船堀3階 応接会議室

▶参加者

8名[学外8名_青森中央学院大学法人(1), 桜美林学園(1), 大垣女子短期大学(1), 大阪大学(1), 香川大学(1), 札幌学院大学(1), 芝浦工業大学(1), 名古屋経済大学(1)]

※平成28年度までの「SDC養成講座」等受講者対象プログラム

▶目標

1. SD研修を設計することができる。
2. 受講者の学習を促すスキルを身につけることができる。
3. SD研修の講師を担うことができる。

▶内容

<1日目>

1. オリエンテーション・開講式
 2. 「研修プログラム設計法」
 3. 「プレゼンテーション・ファシリテーション」
 4. 「シラバスとは」
 5. 「シラバス評価」
 6. 「シラバスの再考とファイルのブラッシュアップ」
- 情報交換会(参加任意)

<2日目>

7. SD講師実践
8. クロージング

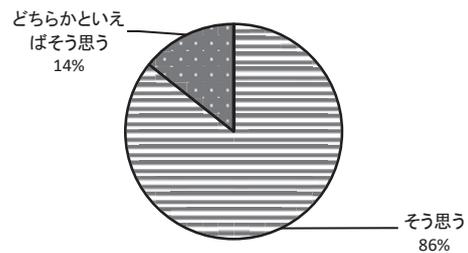


【アンケート結果】

▶回答者(回答率)

7名(87.5%)

▶満足度: 全体的に満足できるものだった



▶コメント

【この研修の良かった点】

- シラバス, プログラム設計の理論的な整理ができた。
- 本学のSDプロジェクトにも共有し, 本学でのSD研修を自力でやる時の質を向上させることができそうです。大学に戻っても, このモチベーションを維持できるように頑張ります。
- 1つの発表をする時に設計法にのっかって考えていたのですが, やはり到達目標の設定との兼ね合いはとても大切で, それを考えていかなければならないことを深く学びました。
- 研修の内容を設計し, 分析しなければならないことの重要性を確認することができました。
- 先生方の立ち居振る舞いから勉強できました。



愛媛大学教育改革シンポジウム

【実施概要】

▶講師

愛媛大学教員(愛大GP取組担当者他)

▶日時

平成29年3月15日(水) 13:30~15:50 (実施予定)

▶場所

愛媛大学城北キャンパス 総合情報メディアセンター

・ポスターセッション:1階ロビー

・事例発表:1階メディアホール

▶目標

ポスターセッションでの質疑応答や講演の傍聴を通じ、現在、愛媛大学で進めている教育内容・方法の改善に関する取組について理解を深める。

▶内容

愛媛大学では、平成18年度から、学内での優れた教育取組に支援を行う「教育改革促進事業」(愛大GP)を行っており、採択取組の進捗状況と成果について情報発信することを目的に、毎年「教育改革シンポジウム」を開催しています。主に、採択取組のポスターセッションと講演を中心に行っており、特にポスターセッションでは、その場での質疑応答を通じて、取組担当者の生の声を聞くことができます。

1. 愛媛大学の教育改革について
2. 学内の教育改革の事例報告
 - ①農学部 ②理学部 ③質疑応答
3. 愛媛大学教育改革促進事業採択取組の実施総括(ポスターセッション)

ポスターによる発表、参加者との質疑応答を通じ、発表者・参加者双方が教育内容・方法の改善に関する理解を深める。また、学生や一般参加者に対しても、愛媛大学の教育改革の現状を広く知らせる。

- ・27年度採択グループ:2年間の実績報告
- ・28年度採択グループ:1年間の中間報告

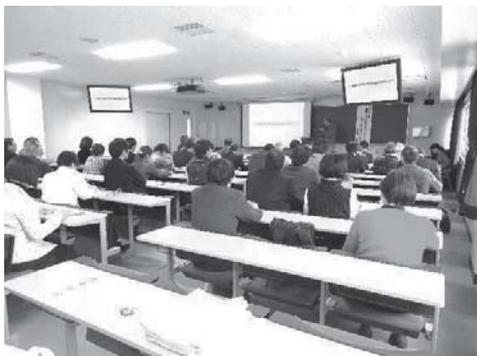


写真:昨年度の様子

【平成27年度 採択プロジェクト・プログラム名】

- ・(教育学部)課題研究指導力の育成を目指した教育プログラムの開発
- ・(工学部)ピア活動を利用したプレゼンテーション能力開発と準正課教育プログラムへの展開
- ・(理学部)クォーター制のメリットを最大限に活かす反転授業教材の開発
- ・(教育学部他)インクルーシブ教育システム下において、児童生徒の健康問題へ適切に対応できる教員養成カリキュラムの開発 一医教連携による学際的講義・実習の充実を目指して一
- ・(医学部)学生にがん医療職リーダーとしての専門意識を植え付ける準正課教育
- ・(教育・学生支援機構)英語のテスト項目バンク(Test Item Bank)開発プロジェクト

【平成28年度 採択プロジェクト・プログラム名】

- ・(教育学部)多様化・複雑化する地域の教育ニーズに対応した教員養成の高度化 ～実践知の蓄積による教職大学院のセンター機能の強化～
- ・(医学部)医学部における「キャリア形成教育」(医療人としてのプロフェッショナリズム教育)カリキュラムの再構成
- ・(教育学部)愛媛で教員になるモチベーションを高める教育内容・方法の充実
- ・(理学部)理学部生を対象とした総合的キャリア教育
- ・(農学部)地域を「知る」、「体験する」、地域と「出会う」、「協働する」ための地域指向型プログラムの整備とキャリアデザイン・ポートフォリオの導入
- ・(教育学部)学力等を構成する重要な三つの要素の育成過程の解明と評価方法の開発
- ・(社会共創学部)高大接続入試改革における多面的評価の現状と課題
- ・(理学部)学生を中心とした高大接続事業の展開
- ・(法文学部 他)分野・教科・科目の枠組みを超えた高大接続教育システムの構築
- ・(法文学部)地域に貢献するグローバル人材の育成を目指して一新設科目「グローバル社会に生きる」の教育効果向上を目指したシミュレーション
- ・(法文学部)法文学部人文社会科学実践科目群「基礎留学英語」で活用するオーダーメイド型短期英語研修準備教科書の新規開発
- ・(法文学部)「基礎フランス語」等で活用するE-ラーニング教材の開発
- ・(理学部)理工学研究科大学院生の英語講演・講義リスニング力向上プロジェクト

③ オープン・オフィス（訪問調査）

全国の高等教育機関からの訪問調査に対応するため、年5回、オープン・オフィスを設定している。今年度の主な内容は以下のとおりである。

訪問対応日	内 容
平成 28 年 6 月 16 日（木）	<ul style="list-style-type: none"> ・教育企画室の業務と体制 ・愛媛大学における教職員の能力開発 ・四国地区大学教職員能力開発ネットワーク関係(SPOD) ・教職員能力開発拠点関係 ・西日本学生リーダーズ・スクール(UNGL) ・愛媛大学リーダーズ・スクール(ELS)
10 月 13 日（木）	
11 月 17 日（木）	
12 月 15 日（木）	
平成 29 年 1 月 12 日（木）	

また、オープン・オフィス以外の個別訪問も受け付けており、12件の依頼に対応した（平成29年2月末現在）。個別訪問の依頼者には、事前に質問事項を確認し、ニーズに最適な教職員が対応にあたっている。

以下、今年度対応した具体的な内容例：

- ◆教育・学生支援機構と教育企画室，
教育学生支援部について
- ◆愛大学生コンピテンシーについて
- ◆カリキュラムマネジメントについて
- ◆愛媛大学のFD／SDの取組について
- ◆データから考える愛大授業改善について



<平成28年度 訪問対応件数>

平成29年2月末現在

地区	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州	その他	合計
訪問数	0	0	5	2	3	1	1	0	0	12

【訪問対応依頼者からの声】

- ・愛大学生コンピテンシーの位置づけや教学IRから教育改善につなげていく工夫は大変参考になった。
- ・教育企画室・教育企画課の取組（教育コーディネーター制度やSPOD等）について、実践に際してのプロセスや注力されている点等を含め具体的に知ることができた。
- ・テニユア・トラック制度について、運営状況等について詳細をお聞きし、大変参考になった。
- ・「データから授業改善を考える」という内容に関して訪問調査をさせていただいたが、上記に限らず様々な情報を教示いただくことができた。
- ・事前にこちらの訪問意図を理解していただいていたので、すぐに質疑に入ることができた。

日本私立大学協会中四国支部からの報告書

研修名：日本私立大学協会中四国支部春季総会

「アクティブ・ラーニングの実践と組織的課題」

日 時：平成 28 年 5 月 19 日（木）14：30～16：00

会 場：広島ガーデンパレス 2階 孔雀・朱鷺の間

講 師：中井 俊樹（愛媛大学教育・学生支援機構 教育企画室）

参加者：54 名（日本私立大学協会中四国支部加盟大学の理事長・学長・事務局長・教員等）

<概要>

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室副室長の中井 俊樹教授を講師に、「アクティブ・ラーニングの実践と組織的課題」をテーマに講演を行った。

講演では、アクティブ・ラーニングの背景、定義、特徴、期待される効果と課題について愛媛大学の実践事例を踏まえ、大学の中で組織的にアクティブ・ラーニングを推進する方法などその必要性を述べられた。

また、講演終了後の懇親会では、中井講師のところに多くの出席者が集まり、意見交換がなされた。



◎受講後の意見・感想

- ・アクティブ・ラーニングへの理解が深まったことと、効果や課題について、具体的に聞けたので良かった。

東京工科大学からの報告書

研修名：平成28年度第5回全学教職員会「アクティブラーニングについて」

日 時：平成28年9月7日(水)16：50～18：00

会 場：東京工科大学 蒲田キャンパス 3号館10階31001教室

【映像配信】八王子キャンパス メディアホール

講 師：中井 俊樹（愛媛大学教育・学生支援機構 教育企画室）

参加者：蒲田キャンパス 130名（役員1名，教員104名，兼任講師17名，職員8名）

八王子キャンパス159名（教員142名，兼任講師8名，職員9名）

<概要>

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室の中井俊樹教授を講師にお招きし、「アクティブラーニングについて」平成28年度第5回全学教職員会（FD・SD研修会）を実施しました。講演テーマ「アクティブラーニングについて～実践のための工夫と課題」に基づき、①意義ある学習とは②アクティブラーニングを理解する③学習課題を組み立てる④発問で思考を刺激する⑤経験を学習に変える⑥学生を相互に学ばせる、の6つの構成でご講演をいただきました。

講演中に、学習の課題について受講者同士で改善策を検討するグループワークを取り入れていただき、講演テーマに則した内容でした。

講演終了後に質疑応答の時間を設け、八王子キャンパス・蒲田キャンパスの両キャンパスから、学部の特性に応じたアクティブラーニングの実施方法や学生の質に応じた取り組み方についてアドバイスをいただきました。



<アンケート結果> 回答者：208名

◎研修についての満足度 満足：40.5% どちらかといえば満足：47.8%

◎講師についての満足度 満足：33.2% どちらかといえば満足：54.1%

◎受講後の意見・感想

- ・アクティブラーニングについての注目、問題意識が芽生えた。学習効果を高めるために授業の実施方法を見直すきっかけを得る良い機会であった。
- ・授業での工夫や課題が分かりやすかった。発問の仕方や回数など具体的で実践しやすいと思った。

九州栄養福祉大学からの報告書

研修名：大人数講義法のコツ

日 時：平成 28 年 9 月 15 日（木）13：30～15：30

会 場：九州栄養福祉大学 北区キャンパス 2号館 4階 401 教室

講 師：小林 直人（愛媛大学教育・学生支援機構 教育企画室）

参加者：50 名（教員 48 名，職員 2 名）

<概要>

愛媛大学の小林直人氏を講師に、「大人数講義法のコツ」をテーマに研修を行った。

まず、イントロダクションにおいて、学生が主体的に考えることを目指して授業方法を工夫していくことが、結果的にアクティブラーニングになること、身体的にではなく、知的にアクティブになることが、座学においても可能であることについて講義がなされた。

その後、大人数講義法のコツに関するプレテストが行われた。そして、学生を主体的に考えさせるための発問の重要性についての講義がなされた。さらに、「文殊カード」を用いた大人数講義のできるグループワークを行いながら、グループワークを授業に取り入れる上でのポイントや注意事項について研修を行った。

研修終了後には、グループワークでの評価方法やフリーライダーの学生への対応等に関して活発な質疑応答がなされ、盛況のうちに閉会となった。



<アンケート結果> 回答者：50 名

◎研修についての満足度 満足： 79.2% どちらかといえば満足： 20.8%

◎講師についての満足度 満足： 91.7% どちらかといえば満足： 6.3%

◎受講後の意見・感想

- ・小林先生の語り方，時間の組み立て方，聞き手へのかかわり方，そのものが大変参考になった。
- ・より学生を引きつける工夫をしていきたいと考えるきっかけになり，後期授業が楽しみになった。声のトーン，方向，手振り，身振り，動き方など参考になった。

崇城大学からの報告書

研修名：平成28年度第1回FD講演会

「アクティブ・ラーニングからディープ・ラーニングへ～大人数講義での経験から～」

日 時：平成28年9月26日（月）16：40～18：10

会 場：崇城大学 F号館 6階大講義室（F601）

講 師：小林 直人（愛媛大学教育・学生支援機構 教育企画室）

参加者：105名（崇城大学教員77名，職員5名 計82名）

（熊本保健科学大学教員19名，職員4名 計23名）

<概要>

愛媛大学の小林先生を講師に招いて、「アクティブ・ラーニングからディープ・ラーニングへ」をテーマに研修を行った。研修の目的は、大講義室を使った講義において如何にして学生に考えさせるかにある。その方法の1つとして、「文殊カード」があり、研修では「どのような講義を行うか」をテーマに3人1班で実際に実行し、その感触について意見交換を行った。この他にも、教員の問いかけに対しクリッカーで応答させる方法、問われたことに対して答えを出させる発問法など、学生を講義に参加させる方法を幾つか紹介された。これらの中には明日からでも使用できるテクニックもあり、有意義な研修であった。



<アンケート結果> 回答者：98名

◎研修についての満足度	満足： 70.1%	どちらかといえば満足： 24.8%
◎講師についての満足度	満足： 69.1%	どちらかといえば満足： 26.8%

◎受講後の意見・感想

- ・完成したアクティブ・ラーニングを行わなくても、講義に「アクティブ」な要素を入れることから始めればよいと思えて気が楽になった。
- ・これまでやってきた授業の中にアクティブ・ラーニングの要素が意外に多くあったと確認できた。ただ、自覚していなかったもので、今後、意識的にとり入れて、再編してゆきたい。

上越教育大学からの報告書

研修名：平成28年度ファカルティ・ディベロップメント研修会

日 時：平成28年11月2日（水）13：30～16：00

会 場：上越教育大学 第2講義棟 202教室

講 師：小林 直人（愛媛大学教育・学生支援機構 教育企画室）

参加者：44名（教員24名，職員6名，学生14名）

<概要>

愛媛大学の小林直人氏を講師に招き，ファカルティ・ディベロップメント研修会を行った。研修会では，講師による「アクティブ・ラーニングによる授業改善，その考え方と具体的な手法－医学部での実践を通じて－」をテーマとした講演の後，講演内容を踏まえたグループ討議及びその討議結果の共有と講師からの助言等の流れで進められた。

この研修により，他分野の実践例も参考に，これからの授業への効果的な活用方法などを考える良い機会とすることができた。



<アンケート結果> 回答者：36名

◎研修についての満足度 満足：80.6% どちらかといえば満足：13.9%

◎講師についての満足度 満足：97.2% どちらかといえば満足：2.8%

◎受講後の意見・感想

- ・実際にアクティブ・ラーニングを体験しながらアクティブ・ラーニングについて考えることが良かった。
- ・医学という全く別の分野から、求められるアクティブ・ラーニングについて教えて頂いたことがとても学びになった。「アクティブ」の解釈についてより考えて調べてみたい。

関西学院大学からの報告書

研修名：学生の主体的な学びを支えるアカデミック・アドバイジング

～アドバイザーに求められる専門性や教学支援を職員の視点から考える～

日 時：平成 28 年 11 月 19 日（土）9：30～12：30

会 場：関西学院大学 西宮上ヶ原キャンパス 大学院 1 号館会議室 1

講 師：清水 栄子（愛媛大学教育・学生支援機構 教育企画室）

参加者：19 名（教員 1 名，職員 18 名）

<概要>

愛媛大学教育企画室の清水栄子氏を招き、「学生の主体的な学びを支えるアカデミック・アドバイジング」をテーマに、講演とワークショップを行いました。

前半は、米国における「アカデミック・アドバイジング」の役割とその専門性について米国 2 大学での事例を交えながらお話いただきました。

また後半のワークショップでは、ある映画の 1 シーンを観て、学習支援に必要な「スキル」と「能力」は何かをグループごとに話し合い、学生の学習を促すための有効な方法について考えました。研修後も受講者から多くの質問が出され、大変活発な時間になりました。



<アンケート結果> 回答者：17 名

◎研修についての満足度 88.2%

◎受講後の意見・感想

- ・所属大学で喫緊の課題となっていることもあり、大変タイムリーな内容だった。今後はアウトカムについて、多くの大学と意見交換する機会があればと思う。
- ・非常に興味深い内容で、自身の業務に対する取組に資するものだったと思う。

愛媛県病院看護部長・教務責任者協議会からの報告書

研修名：看護のための教育学—主体的な看護師育成—

日時：平成28年11月30日（水）13：00～15：00

会場：愛媛県看護協会 愛媛看護研修センター2階 大研修室

講師：中井 俊樹（愛媛大学教育・学生支援機構 教育企画室）

参加者：74名（看護部長61名，教務責任者13名）

<概要>

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室 副室長 教授 中井 俊樹先生を講師に、「看護のための教育学 —主体的な看護師育成—」をテーマに研修が行われた。

受講者はランダムに振り分けられたグループとなり，教育方法入門，発問，指示，技術指導，主体的な看護師育成の内容で講義を受講した。

技術を習得する3つの段階として，「認知の段階」「体制化の段階」「自動化の段階」を理解した上での指導の重要を学んだ。

また，研修の経過の中で自己紹介後，講師から提出されたテーマの課題を元にワークを行い，具体的な発問の方法や指導方法などについて自ら体験する良い機会となった。

研修終了後には，受講者から多くの質問が出され，それに対する講師からのアドバイスを頂き，今後の課題であるところの主体的な看護師の育成における気付きを得られた研修であった。



◎受講後の意見・感想

- ・教育についてとても分かりやすい切り口で学ぶことができた。今後役に立てたい。
- ・問われる人は考える。発問は個人を成長させることと、自分のキャリアに責任を持たせること、自分の軸をきちんと持つこと等が分かった。
- ・主体的な看護師を育成するには、看護管理者も教育について学ばなくてはならないと思った。
- ・授業と学生指導の方法に自己満足している部分、学生が悪いのではなく自分が教員として考えなければならないと思った。

神戸大学からの報告書

研修名：FD セミナー「多人数授業におけるアクティブラーニングの実践方法」

日 時：平成 28 年 12 月 7 日（水）8：50～10：20

会 場：神戸大学 瀧川記念学術交流会館 2 階 大会議室

講 師：中井 俊樹（愛媛大学教育・学生支援機構 教育企画室）

参加者：49 名（教員 38 名（教育・学生担当理事を含む）、職員 11 名）

<概要>

愛媛大学の中井俊樹氏を講師に招いて、「多人数授業におけるアクティブラーニングの実践方法」をテーマとして FD セミナーを行った。

セミナーでは、アクティブラーニングの基本的な方法等に関して体系的に理解を深めるとともに、学修課題の組み立てや発問の重要性など、多人数授業における工夫について紹介された。終了後の質疑応答では多くの質問が出され、活発な意見交換が行われた。



<アンケート集計結果> 回答者：43 名

◎研修についての満足度 満足： 60.5% どちらかといえば満足： 30.2%

◎講師についての満足度 満足： 72.1% どちらかといえば満足： 23.3%

◎受講後の意見・感想

- ・講義の進め方、運営についてヒントをたくさんいただきました。少しずつでも実践させていただきたいと思う。
- ・理系教員ですが、「発問」をうまく取り入れる余地があると思ったことがよかった。
- ・日常的に実践しようとしているアクティブラーニングについて、体系的な理解を得ることができた。

創価大学からの報告書

研修名：プロジェクト・マネジメント研修

日 時：平成28年12月19日（月）10：00～15：30

会 場：創価大学 中央教育棟AE256教室

講 師：丸山 智子（愛媛大学教育・学生支援機構 教育企画室）

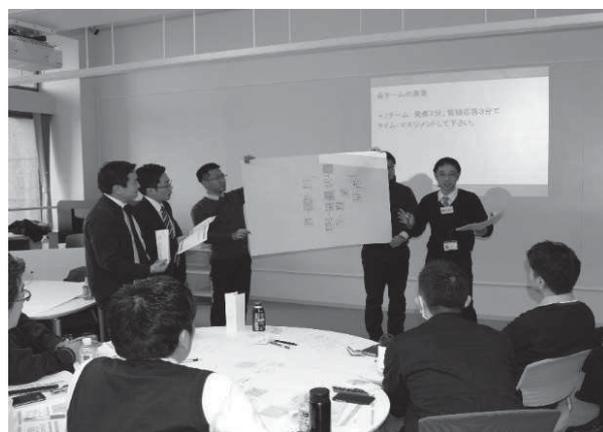
参加者：専任職員29名

<概要>

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室特任助教の丸山智子氏を講師に、「プロジェクト・マネジメント研修」を開催した。

まず、各部署から選抜された受講者29名を本部事務局と大学事務局の各部署を混在させた6グループに編成し、プロジェクト・マネジメントの基礎知識と手法を学んだ。その後、本学が抱える課題（全学禁煙化の実施により、学内の喫煙場所を全て撤去したことにより、大学周辺での喫煙が増加し、近隣からの苦情が増えていること）について、各グループで問題解決プロジェクトチームとして、問題解決の企画提案策定のワークを通して、プロジェクト・マネジメントの手法を体感し、大変に活発な議論を展開した。

最後にはグループごとに問題解決企画のプレゼンテーションを行い、各グループの問題解決提案の共有を図った。



<アンケート結果> 回答者：29名

◎研修についての満足度 満足：75.9% どちらかといえば満足：24.1%

◎講師についての満足度 満足：75.9% どちらかといえば満足：24.1%

◎受講後の意見・感想

- ・具体的かつ本学の課題をテーマにワークを実施して頂いたことで、より白熱した議論や意識で取り組めた。
- ・プロジェクト推進の手法（体系）を学ぶことができた。
- ・自身の業務においてもこの考え方を活かしていきたいと思った。

⑤ 情報発信

教育改革や改善を進めるためには現状を把握し、分析することが第一歩となる。本拠点では、学生の学びと成長に関わる各種データの収集・分析を行い、情報を公開している。その成果の一つとして、ポスター「データから考える愛大授業改善 Vol.2」を作成した（次頁参照）。Vol.2となる今回は、学生のキャリア意識と進路に関わるデータを収集し、意外と知られていない入学から卒業までのキャリアに関わるデータを掲載している。授業やカリキュラムの改善及び学生支援の充実に活用していただけるよう、広く教職員に配付するとともに、各種研修等の場で情報提供していく。

また、教学IRerへの支援の一環として、調査結果から想定される課題や学内外のIRに関する取組報告を掲載した、教育企画室ニュースレター「IR News 第4号」を発行し、全国の高等教育機関に配付することとしている。

これらの刊行物及び各種イベント・セミナーの案内や教材等の提供をはじめとした教職員能力開発に関わる情報について、教育企画室のホームページでも発信している。

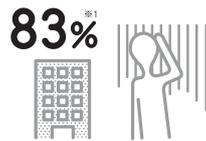
また、本拠点が推薦する書籍を紹介したリーフレット「大学教職員のための32冊」（平成28年2月発行）に関して、各種研修での配付や教育企画室のHP等での公開に加え、愛媛大学図書館に特設コーナーを設置して推薦図書と共に展示する等、学内外に広く周知した。さらに、その後の反響や効果までを追い、8月24日（水）～26日（金）に愛媛大学で開催されたSPODフォーラム2016のポスターセッションで「大学教職員の自己啓発を促す図書の提案と効果」と題して発表を行った。当該発表は優秀賞に選出され、「自己啓発を行うツールとして有効である」等の高い評価を得た。

入学時に進路が
決まっていない **48%**^{*1}



大学時代は自分の
キャリアを考える貴重な時間

入学時に就職に
不安を持っている



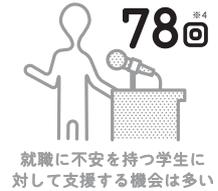
就職活動や社会に出るのが
こわいのは当然？

インターンシップに参加した



学生の職場体験を
大学での学習につなげよう

学内での就職
セミナーの開催



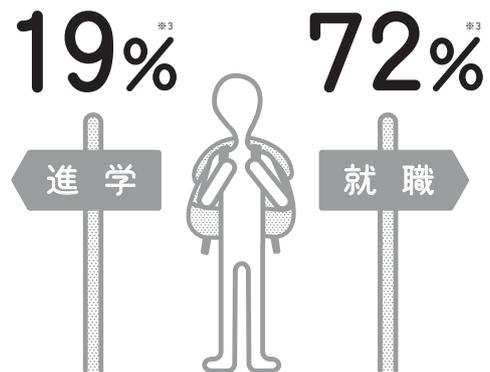
就職に不安を持つ学生に
対して支援する機会が多い

入学時に愛媛県に
就職したい



愛媛で生活する魅力を
自分自身の体験から伝えよう

卒業後の進路



それぞれの進路で
活躍するための土台をつくろう

留学を経験した



「かわいい子には旅をさせよ」は
今でもあてはまる？

データから 考える VOL.02 愛大授業改善

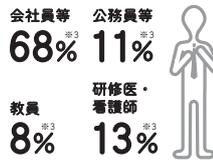
9月までに就職先が決まらない



不安な気持ちを持つ学生の
存在に気づこう

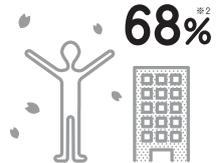
学生中心の大学を目指した教育改善を進めるための
第一歩は、現状を正しく把握することです。
愛媛大学生のキャリア意識と進路に関わるデータを
理解して、授業やカリキュラムの改善、学生支援の
充実につなげていきませんか。

卒業後の就職先



卒業後の就職先に
関心を持とう

就職先が第一希望である



第一希望に就職する学生が
多いのはうれしいことだ

愛媛県内に就職した



愛媛大学は
県内就職率50%を目指している

県外出身者が愛媛県内に
就職した



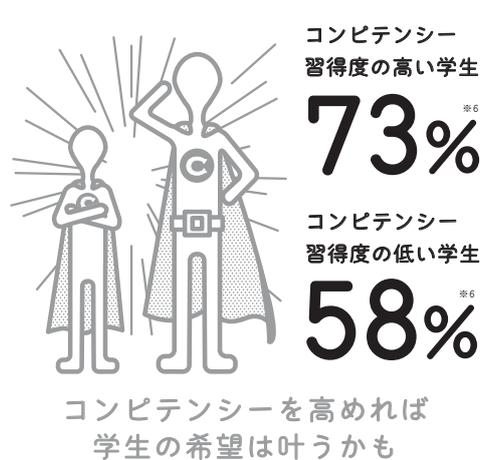
わかる学生には
愛媛の魅力が伝わるようだ

愛大学生コンピテンシーを
習得した



コンピテンシーは大学教育と
社会をつないでいる

コンピテンシーの習得と
第一希望への就職



コンピテンシーを高めれば
学生の希望は叶うかも

参考ウェブサイト [愛大生3期中間目標・中期計画](https://www.ehime-u.ac.jp/overview/mid_term3/) [大生コンピテンシー](https://www.ehime-u.ac.jp/overview/competency/) [愛媛大学教育評価資料](https://web.opar.ehime-u.ac.jp/about/ir/)

*1 「平成28年度愛媛大学新入生アンケート調査報告書」(学内公開データ) *2 「平成27年度愛媛大学卒業予定者アンケート調査報告書」(学内公開データ) *3 就職支援提供データ(2015年度) *4 就職支援提供データ(2016年度)
*5 愛大学生コンピテンシーに定められた12の力に対する習得度を6段階の選択肢で尋ね、上位3段階を選択した割合
*6 愛大学生コンピテンシーに定められた12の力に対する習得度を学生別に点数化した。点数の高い順に学生を並べ、上位25%を「コンピテンシーの習得度の高い学生」、下位25%を「コンピテンシーの習得度の低い学生」として、第一希望に就職する学生の割合をそれぞれのグループにおいて算出した。

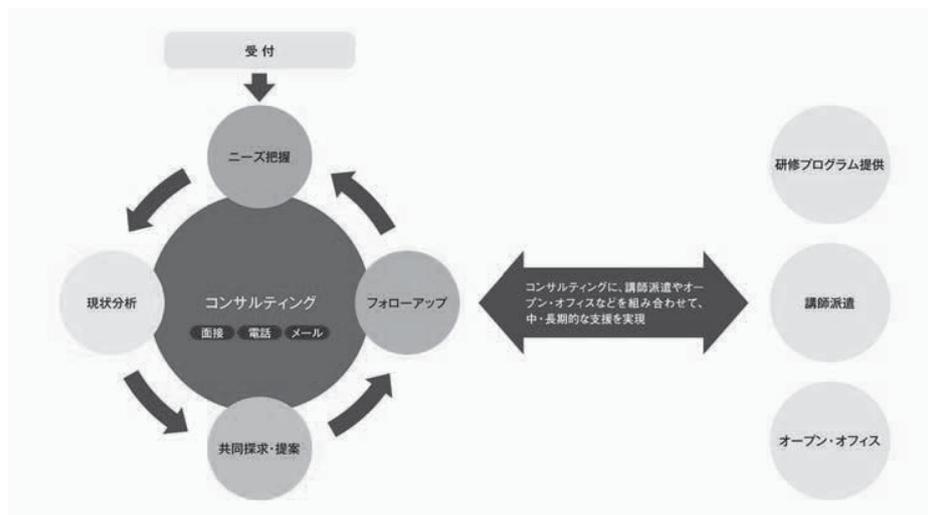
⑥ その他教職員能力開発に関する事業

1) コンサルティングについて

授業やカリキュラムの改善，IRの組織等，能力開発や組織に関する個別相談を受け，コンサルティングを行っている。平成29年2月末現在，7件の依頼に対応した。コンサルティングでは，教育コンサルタントによる現状診断を行い，ニーズを分析した上で，提案，介入，フォローアップというプロセスが取られる。この一連の流れの中に，研修会等の講師派遣や訪問対応を組み合わせ，その場限りの対応とならないよう長期的支援の実現に力を注いでいる。

また，本拠点代表の小林は，今年度から日本医学教育学会の卒前教育委員会の委員に任命され，医療人教育にアクティブ・ラーニングを積極的に導入するための教材作成を分担している。

<コンサルティングの流れ>



2) 中央教育審議会大学分科会における事例提供について

平成28年12月27日に開催された中央教育審議会大学分科会大学教育部会（第44回）において，大学の事務職員等の在り方について審議される中，本拠点のSDC養成事業がSDの具体的事例として資料に取り上げられた。大学職員の業務内容の変容に伴い，今まで以上にSDへの関心が寄せられる昨今，本事業への関心が伺えた。

3) 学会発表及び実地調査報告

講師派遣事業を通じて，創価大学に対して継続的にアクティブ・ラーニング推進の支援を行っており，その取組の一つとして開発した授業改善ワークショップ及びそのフォローアップ研修が実施された。これらの内容と効果について，平成28年5月21日に開催された教育工学会研究会で「自律的な授業改善サイクルを促すための教員研修の改善と評価」と題して発表を行い，アクティブ・ラーニングを活用し，自身の授業を見直す授業改善サイクルを身につけるための教員研修として関心を集めた。この他，大学教育学会や日本教育メディア学会（ICoME）で学内での取組や本事業の成果について発表を行った。

4) 論文, 記事の掲載等について

専門分野から大学全体での取組まで, 教育企画室のスタッフが愛媛大学での事例や研究成果をまとめた論文や記事について, 各種教育誌や新聞等に掲載された(詳細は以下参照)。

また, 著書に関しても共著を含めて4冊が新たに出版され, 研究成果を積極的に発信している。

表題	掲載誌等名	出版社	出版年 /巻/号/頁	著者
A Questionnaire Survey in Ehime Prefecture, Japan Revealed the Residents Preferences for Community Medicine and Medical Education	General Medicine	the Japan Primary Care Association	2016(印刷中)	(共著) 小林直人ら
A year-round EBM learning course organized by medical students in Ehime University	General Medicine	the Japan Primary Care Association	2016(印刷中)	(共著) 小林直人ら
日本語リテラシー教育における高大接続-eラーニングの活用とその効果-	日本リメディアル教育研究	日本リメディアル教育学会	2016年4月 第11巻第1号 pp.1~12	(共著) 仲道雅輝ら
e-learningの全学的普及推進に向けた実践研究-効果的な普及方略に関する一考察-	教育システム情報学会誌	教育システム情報学会	2016年8月 Vol.33, No3 pp.149~154	(共著) 仲道雅輝ら
医学教育のトピックス ~アクティブ・ラーニングのすすめ~(総説)	愛媛医学	愛媛医学会	Mar 2017 36(1) (印刷中)	(共著) 小林直人ら
教授法としてのアクティブラーニング	IDE :現代の高等教育	IDE大学協会	2016 No.582 pp.17~20	中井俊樹
高等教育におけるeラーニングの普及方策 -愛媛大学教育デザイン室の取り組み-	大学教育と情報	私立大学情報教育協会	2017年3月 No.4 (印刷中)	仲道雅輝
愛媛大学における初年次教育用教材の改訂 -探究を志向するスタディ・スキルの育成を目指して-	大学教育実践 ジャーナル	愛媛大学教育・ 学生支援機構	2017年3月 第15号 (印刷中)	(共著) 清水栄子, 小林忠資
映画『ビリギャル』を活用した大学職員の能力開発に向けた集合研修	大学教育実践 ジャーナル	愛媛大学教育・ 学生支援機構	2017年3月 第15号 (印刷中)	(共著) 小林忠資, 中井俊樹
教育改善のためのデータ共有の試み -愛媛大学における教学IRの事例から-	大学教育実践 ジャーナル	愛媛大学教育・ 学生支援機構	2017年3月 第15号 (印刷中)	加地真弥
学生にとって初めてのフルオンライン型ラーニング科目の履修動向と学習継続支援:実践からの一考察	大学教育実践 ジャーナル	愛媛大学教育・ 学生支援機構	2017年3月 第15号 (印刷中)	(共著) 仲道雅輝ら
e-learningを活用した周手術期実習の事前学習教材の開発「周手術期看護:手術直後の患者の観察と対処方法」における取り組み	大学教育実践 ジャーナル	愛媛大学教育・ 学生支援機構	2017年3月 第15号 (印刷中)	(共著) 仲道雅輝ら
eラーニングを活用した高大接続プログラム「日本語リテラシー」に対する生徒の意識と学習観	大学教育実践 ジャーナル	愛媛大学教育・ 学生支援機構	2017年3月 第15号 (印刷中)	(共著) 仲道雅輝ら
特集『3つのポリシーの具現化』愛媛大学 全学の教育改革推進の核となる3ポリシーの見直し	カレッジマネジメント	リクルート	Nov-Dec,2016 201号 pp.36~39	(インタビュー) 小林直人ら
大学プレスセンターダイジェスト	サンデー毎日	毎日新聞社	2016年 8月15日号 Vol. 96, pp.98	(インタビュー) 小林直人

教職員能力開発拠点事業出張報告書

報告者	加地 真弥
出張期間	平成28年5月21日（土）
出張先	大阪大学（豊中キャンパス）
出張用務（目的）	教育工学会研究会発表のため

<概要>

教育工学会では教育工学研究を行う人の討論の場として年5回の「研究会」が開催されている。発表テーマが毎回設定され、テーマに関連した発表とあわせ、設定されたテーマ以外の教育工学一般の発表も募集している。そのため、幅広く参加できるのが本研究会の特徴である。今回は「高等教育における教育方法・FD・IR／情報教育」をテーマに開催された。プログラム概要は以下のとおりである。発表時間は24分（発表19分、質疑5分）

日付・曜日	時間	内容
5月21日（土）	9:55～	受付・諸連絡
	10:00～12:05	午前の部
	12:05～13:05	休憩
	13:05～13:10	委員会挨拶・諸連絡
	13:10～15:15	午後の部

<所感>

発表では、創価大学での「創価大学アクティブラーニング推進のための授業改善ワークショップ」のフォローアップ研修についての実践報告を行った。創価大学では平成26年度よりAP事業の中で新たな教員研修を通じてアクティブラーニングを活用した授業設計力を高める取り組みを行っている。そのひとつに、教職員能力開発拠点の取り組みとして、授業担当者が自律的な授業改善サイクルを回すための能力を身につけるための研修を設計・実施した。研修の設計には、愛媛大学で開催している新任教員研修「授業デザインワークショップ」をモデルとした。

研修は年2回開催することとし、同じ参加者が両方に参加することで、自律的な授業改善サイクルを回す能力が身につくことを狙っている。1回目の研修では、授業改善に関する基礎固めを図り、参加者自身が担当する授業のシラバスを見直した（2016年3月教育工学会研究会にて発表）。半年後に2回目の研修を開催し、1回目の研修で見直した授業の実践結果を持ち寄り、実践内容の評価を行う「フォローアップ研修」を実施した。

これらの授業改善を目的とした年2回の研修内容とその効果について整理し、発表を行った（発表に際して事前に創価大学の研究倫理審査の了解をとっている）。発表では、研修の目的やアクティブラーニングを活用した授業改善に注目が集まった。自身の授業を見直す授業改善サイクルを身につけるための教員研修として高い関心が示された。今回の発表で得られた知見などを愛媛大学での新任教員研修「授業デザインワークショップ」においても参考としていきたい。

教職員能力開発拠点事業出張報告書

報告者	清水 栄子
出張期間	平成 28 年 6 月 10 日（金）～12 日（日）
出張先	立命館大学いばらきキャンパス
出張用務（目的）	大学教育学会第 38 回大会参加
<p>参加プログラムは以下のとおりである。</p> <p>【6/11（土）】 10:00～12:00 ラウンドテーブル「学生の「学び」を質保証する三つのポリシー＋アセスメント・ポリシーについて考える」</p> <p>14:10～15:30 基調講演「Waseda Vison150 による教育力向上へのチャレンジ」 大野高裕氏（早稲田大学）</p> <p>15:45～17:45 公開シンポジウム 「伸びる大学の教育力は何か違うかーデータに基づいて検討するー」 趣旨説明・司会 鳥居朋子（立命館大学）</p> <p>報告 1 大学における教育力の強化とマネジメントの確立 吉武博通（筑波大学） 報告 2 教育力を高める“特効薬”を探索する 山本幸一（明治大学） 報告 3 リーダーシップ教育普及元年ー大学教育イントレプレナーシップ 日向野幹也 （早稲田大学）</p> <p>報告 4 エビデンスに基づく高等教育開発 佐藤浩章（大阪大学） 指定討論者：濱名 篤（関西国際大学）</p> <p>【6/12（日）】自由研究発表 9:30～ 12:00 部会 6 教学 IR 13:00～15:00 部会 15 学習成果の測定と活用</p> <p>【所感】 初日のラウンドテーブルでは、愛媛大学における学部・学科および全学の三つのポリシー策定の経緯について報告した。参加者数は約 120 名であった。公表の義務化を控え、このテーマへの関心の高さがうかがえる。三つのポリシーの一貫性とその後の評価と改善が今回の企画趣旨であった。3 ポリシーの一貫性と具体的な評価方法に関心が高いようだった。</p> <p>公開シンポジウムではエビデンスがテーマとなっていた。マネジメント、教学 IR、リーダーシップ教育、FD という四つの観点から“教育力”に関する発表の後、指定討論者とフロアとの質疑応答で進行された。明治大学の教学 IR や立教大学のリーダーシップ教育についての実践に関する情報を得ることができた。しかし、ここで取り上げる“教育力”および“エビデンス”の定義が曖昧なままの進行となっていたのが残念であった。</p> <p>2 日目については、教学 IR および学習成果の測定に関わる研究および実践事例の情報収集を目的に参加部会を選択した。研究ベースおよび実践ベースでのデータのとらえ方やクリッカーを活用した学生情報の収集等、新たな知見を得られた。どの発表もデータ収集とその分析の段階であり、データの活用という点においてはまだ先進的な発表は見られなかった。</p> <p>共同利用拠点として提供している研修プログラムの改善や本学での教学 IR の実践に今回得られた知見を活用していきたいと考えている。</p>	

教職員能力開発拠点事業出張報告書

報告者	丸山 智子
出張期間	平成28年9月7日（水）～8日（木）
出張先	大学コンソーシアム京都
出張用務（目的）	企画立案力向上研修受講のため

<概要>

大学コンソーシアム京都主催 2016 年度大学職員共同研修「企画立案向上研修」を受講しました。

日付・曜日	項目
9月8日（木）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 企画とは何か 2. 企画とは相手を説得させる武 <ul style="list-style-type: none"> ・企画のための3つのポイント，生きた「企画」を生み出すために必要な事 3. 企画に必要なアイデア・発想の捉え方 <ul style="list-style-type: none"> ・着眼・発想の技術を身につけてみよう 4. 企画作りの基本スタンス <ul style="list-style-type: none"> ・企画のプロセスと準備，企画作りのステップ ・問題意識の前提・・・目的の明確化を行うために ・現状分析の整理法とまとめ方 5. 計画立案に向けてのステップ <ul style="list-style-type: none"> ・あるべき方向性への提示，課題の設定，コンセプトと実現構想を考え，方向性を定める 6. 企画構想のプランニング <ul style="list-style-type: none"> ・企画所作成のポイント，企画書作成の流れ，文書作成のまとめ方 7. 構想プランを作成してみよう グループワーク

<報告>

現在大学職員の能力開発において，企画立案力は育成が必要とされる重要なスキルの一つである。

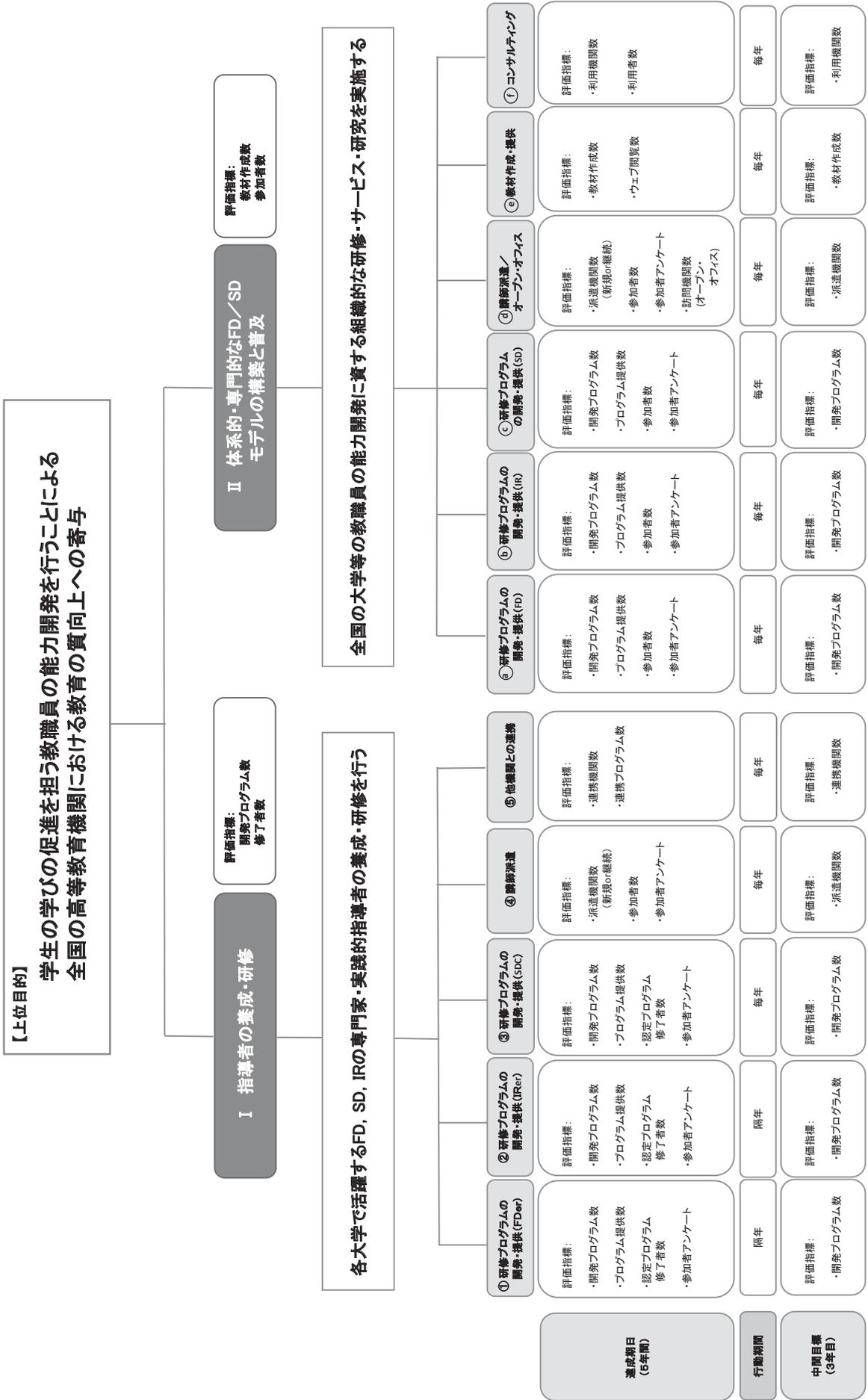
本研習講師は，民間のトレーナーであった。今回は，自らがこの研修を大学職員対象に構築する場合どうするか，という視点で受講した。以下の点の明確化の必要性が得られた。

- 大学職員にとっての企画立案力とは何か
 - 積極的に企画を生み出すような職場環境にない状況でなぜこの能力が必要かを説明
 - 企画立案力は，職位によって求められる内容が違う
 - 受講対象がどんな企画立案力が必要かを分析
 - SPOD 研修であればレベルⅠ～Ⅲで内容が異なるものになるだろう
 - 大学の文脈を研修の内容に入れ込まないと，非常に一般的な内容となり，職場での活用方法がイメージできない
 - ケースを取り入れる場合は，職員の人と一緒に作る方がよい
- これら得た気づきを基にして，企画立案の研修を構築し，実施を目指したい。

教職員能力開発拠点事業出張報告書

報告者	小林 忠資
出張期間	2016年9月28日（水）
出張先	TKP ガーデンシティ永田町（千代田区平河町）
出張用務（目的）	大学教育イノベーション日本の総会，キックオフ・シンポジウムへの参加
<p>全体の工程</p> <p>9月28日（水）10:30－12:00</p> <p>TKP ガーデンシティ永田町において大学教育イノベーション日本の総会に参加した。大学教育イノベーション日本は、文部科学省より「教育関係共同利用拠点（大学の教職員の組織的な研修等の実施機関）」として認定を受けている11機関と大学コンソーシアム京都の加盟する組織である。同認定を受けている九州大学基幹教育院はオブザーバーとしての参加であった。今回は第1回の総会であり、以下の内容について議論した。</p> <p>① 規約について ② 役員を選出について ③ 今後の活動について</p> <p>9月28日（水）13:00－17:00</p> <p>総会に引き続き、大学教育イノベーション日本のキックオフ・シンポジウムに参加した。同シンポジウムのテーマは、「大学教育におけるイノベーション創出－世界に通用する人材育成をめざして」であり、基調講演と3つの報告から構成されていた。基調講演と報告のテーマは以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基調講演「これからの働き方と今後の教育のあり方」（柳川 範之 教授 東京大学） ・報告1 カリキュラムや教育方法の開発 「組織（大学）内企業から全国展開へー日本のリーダーシップ教育の発展」 （日向野 幹也教授 早稲田大学） ・報告2 大学職員の能力開発「大学教職員の能力開発：広がりと深まり」 （竹内 比呂也 副学長 千葉大学） ・報告3 教育マネジメント・組織開発「教育マネジメントとIR」 （佛淵 孝夫 前学長 佐賀大学） <p>フロアの参加者を交えた講演者と報告者によるディスカッションでは、大学のマネジメントの特殊性、大学教育イノベーションの意味、大学教育のイノベーションのあり方、大学教育イノベーションを目指す取り組みの社会への広報の重要性について議論された。</p>	

第2期教職員能力開発拠点の目標体系図



愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室内規

〔 平成18年5月10日
制 定 〕

(設置)

第1条 愛媛大学教育・学生支援機構規則第10条第2項の規定に基づき、愛媛大学教育・学生支援機構（以下「機構」という。）に愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室（以下「教育企画室」という。）を置く。

(目的)

第2条 教育企画室は、愛媛大学教育・学生支援機構長（以下「機構長」という。）の指示のもと、愛媛大学（以下「本学」という。）の教育に関する諸課題について調査、研究等を行うとともに、その成果を実際の教育活動に適用し、本学の教育改革を推進することを目的とする。

(教育研究部門)

第3条 前条の目的を達成するため、教育企画室に次の各号に掲げる教育研究部門（以下「部門」という。）を置く。

- (1) 教育・学習支援部門
- (2) 教育調査・分析部門
- (3) 学生能力開発部門

(業務)

第4条 教育企画室は、機構長の指示に基づき、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 全学的な教育課題に係る調査、研究等に関すること。
- (2) 教育の質保証のための教職員の能力開発に関すること。
- (3) 授業評価及びシラバスに関すること。
- (4) 学生の学習支援及び能力開発に関すること。
- (5) 四国地区大学教職員能力開発ネットワーク事業に関すること
- (6) 教職員能力開発拠点事業に関すること
- (7) その他教育開発に係る調査、研究等に関すること。

(組織)

第5条 教育企画室に、次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) 室長
- (2) 副室長
- (3) 室員

- ア 教育企画室に配属された機構の専任教員
イ 機構の専任教員（アを除く。） 若干人
ウ 本学（機構を除く。）の専任教員 若干人

- 2 室長は、機構長が指名する副機構長をもって充てる。
- 3 副室長は、本学の専任教員のうちから、機構長がその者が所属する学部等の長の同意を得て、委嘱する。
- 4 室員のうちイの者は機構長が指名し、ウの者は機構長がその者が所属する学部等の長の同意を得て、委嘱する。
- 5 副室長及び室員（アを除く。）の任期は1年とし、再任を妨げない。

(職務)

第6条 室長は、教育企画室の業務を掌理する。

- 2 副室長は、室長の職務を助ける。

参考資料②

3 室員は、教育企画室の業務を処理する。

(共同利用運営委員会)

第7条 教育企画室に、第10条に規定する共同利用の実施に関する重要な事項を審議するため、共同利用運営委員会を置く。

2 共同利用運営委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(研究員)

第8条 教育企画室に、研究員を置くことができる。

2 研究員は、教育企画室の業務に従事する。

3 研究員は、本学の職員のうちから、室長が推薦し、機構長が当該職員の所属する学部等の長の同意を得て、委嘱する。

(教育支援員)

第9条 教育企画室に、教育支援員を置くことができる。

2 教育支援員は、教育企画室の業務に参画する。

3 教育支援員は、他の大学、地方公共団体、民間企業等（以下「他の大学等」という。）の者のうちから、室長が推薦し、機構長がその者が所属する他の大学等の長の承認を得て、委嘱する。

(共同利用)

第10条 教育企画室は、教職員の能力開発のため、本学の教育、研究に支障のない範囲で、本学のプログラム、設備、資料等を、他の高等教育機関等の利用に供することができる。

(事務)

第11条 教育企画室に関する事務は、教育学生支援部において処理する。

(雑則)

第12条 この内規に定めるもののほか、教育企画室に関し必要な事項は、機構長が別に定める。

附 則

この内規は、平成18年5月10日から施行し、平成18年4月1日から適用する。

附 則

この内規は、平成20年4月23日から施行し、平成20年4月1日から適用する。

附 則

この内規は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成22年3月23日から施行する。

附 則

この内規は、平成24年9月19日から施行する。

愛媛大学教職員能力開発拠点（教育・学生支援機構教育企画室）における
スタッフ・ディベロップメント・コーディネーターの認定に関する要項

平成23年3月9日
制 定

（趣旨）

第1条 この要項は、愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室共同利用運営委員会内規第8条に基づき、文部科学大臣から教育関係共同利用拠点として認定を受けた愛媛大学教職員能力開発拠点（教育・学生支援機構教育企画室、以下「拠点」という）において、職員の能力開発（以下「SD」という。）に関する知識・技術を修得し、SDの実践的指導者として適切な能力を有すると認められる者の資格認定に関し、必要な事項を定めるものとする。

（資格の名称）

第2条 資格の名称は、「スタッフ・ディベロップメント・コーディネーター（Staff Development Coordinator）」（以下「SDC」という。）とする。

（資格の認定）

第3条 SDCの資格の認定は、別紙に定める認定基準を満たし、かつ、自らの業績等を記録したポートフォリオ（スタッフ・ポートフォリオ、ティーチング・ポートフォリオ、アカデミック・ポートフォリオと呼称されるものをいう。）を別紙様式1のSDC認定申請書とともに提出した者に対して、拠点が別紙様式2の資格認定証書を授与することによって行う。

2 前項の資格認定証書は、第5条に規定する資格認定委員会による書類審査及び面接審査に合格し、愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室共同利用運営委員会が認定した者に授与する。

（資格の有効期間）

第4条 前条で認定を受けた資格の有効期間は、認定日から、拠点が教育関係共同利用拠点としての認定を受けた有効期間の終了日までとする。

（資格認定委員会）

第5条 別紙様式1のSDC認定申請書が提出されたときは、資格認定の審査を行うため、資格認定委員会を設けるものとする。

2 資格認定委員会は、拠点の代表者が指名する者をもって構成する。

3 資格認定委員会に委員長を置き、前項に規定する委員の中から拠点の代表者が指名する。

（資格認定・授与原簿）

第6条 SDCを認定し授与したとき、及び第8条に規定する資格の取消しを行ったときは、別紙様式3の愛媛大学教職員能力開発拠点スタッフ・ディベロップメント・コーディネーター認定・授与原簿に所定の事項を記入するものとする。

（資格認定証書の再交付）

第7条 資格認定証書を破損又は紛失したときは、再交付を行うことができるものとする。

（資格の取消し）

第8条 SDCを授与された者が、刑事罰又は行政罰等を受けたときは、当該資格を取り消すことができるものとする。

（事務）

第9条 SDCの認定に関する事務は、教育学生支援部教育企画課において処理する。

（雑則）

第10条 この要項に定めるもののほか、SDCの認定に関し必要な事項は、拠点の代表者が別に定める。

参考資料③

附 則

この要項は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成24年8月17日から施行する。

附 則

この要項は、平成25年5月27日から施行する。

附 則

この要項は、平成26年7月3日から施行する。

附 則

この要項は、平成27年6月30日から施行する。

別紙

スタッフ・ディベロップメント・コーディネーターの資格認定基準

スタッフ・ディベロップメント・コーディネーターの資格認定基準は、次のとおりとする。

1. 高等教育機関におけるSDプログラム開発・企画・評価の手法を修得していること。
2. 高等教育機関における職員人材育成ビジョン^{※1}を構築・支援するための手法を修得していること。
3. スタッフ・ポートフォリオ^{※2}を作成する職員に対するメンター経験を有していること。
4. 資格の認定を受けようとする者が所属する機関以外において主催される研修会の講師の経験を原則、7回以上有していること。

※1 職員人材育成ビジョンとは、各機関において職員を育成していくための理念等を明文化したものであり、各機関固有のものをいう。

※2 スタッフ・ポートフォリオとは、SPODが開発した職員の業績記録の一形態であり、職員としての業績を具体的な裏付け（エビデンス）に基づき振り返ることにより、自らの成長をあらためて認識できるものをいう。

参考資料④

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室共同利用運営委員会内規

平成22年3月23日
制 定

(趣旨)

第1条 この内規は、愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室内規（以下「教育企画室内規」という。）第7条第2項の規定に基づき、愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室共同利用運営委員会（以下「運営委員会」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2条 運営委員会は、教育企画室内規第10条に規定する共同利用の実施に関する重要な事項を審議する。

(組織)

第3条 運営委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 教育企画室長
- (2) 教育企画室副室長 1人
- (3) 教育学生支援部長
- (4) 学外の学識経験者 若干人

2 前項第2号の委員は、教育企画室長が推薦し、愛媛大学教育・学生支援機構長（以下「機構長」という。）が指名する。

3 第1項第4号の委員は、機構長が推薦し、学長が委嘱する。

4 第1項第2号及び第4号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じたときはこれを補充し、その任期は、前任者の残任期間とする。

5 第1項第1号から第3号までの委員の合計数は、運営委員会の委員の総数の2分の1以下とする。

(委員長)

第4条 運営委員会に委員長を置き、教育企画室長をもって充てる。

2 委員長は、運営委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

(議事)

第5条 運営委員会は、委員（代理者を含む。以下同じ。）の過半数が出席しなければ議事を開くことはできない。

2 議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ、説明又は意見を聴くことができる。

(事務)

第7条 運営委員会に関する事務は、教育学生支援部において処理する。

(雑則)

第8条 この内規に定めるもののほか、運営委員会の運営に関し必要な事項は、運営委員会が別に定める。

附 則

1 この内規は、平成22年3月23日から施行する。

2 この内規施行後、最初に任命される第3条第1項第3号及び第6号の委員の任期は、同条第4項の規定にかかわらず、平成24年3月31日までとする。

附 則

この内規は、平成23年5月9日から施行する。

附 則

この内規は、平成27年4月1日から施行する。

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室共同利用推進会議内規

平成22年 4月21日
制 定

(設置)

第1条 愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室内規第12条の規定に基づき、愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室に愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室共同利用推進会議（以下「共同利用推進会議」という。）を置く。

(目的)

第2条 共同利用推進会議は、愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室共同利用運営委員会が定める基本方針に基づき、共同利用の事業等を実施するために必要な事項を審議する。

(組織)

第3条 共同利用推進会議は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 教育企画室長
- (2) 教育企画室副室長
- (3) 教育・学生支援機構の専任教員 1人
- (4) 教育学生支援部長
- (5) 教育企画課長
- (6) 人事課長

2 前項第3号の委員は、教育企画室長が推薦し、愛媛大学教育・学生支援機構長が指名する。

(議長)

第4条 共同利用推進会議に議長を置き、教育企画室長をもって充てる。

2 議長は、共同利用推進会議を招集し、主宰する。

3 議長に事故があるときは、議長があらかじめ指名する教育企画室副室長がその職務を代行する。

(議事)

第5条 共同利用推進会議は、委員の3分の2以上の出席がなければ議事を開くことができない。

2 議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第6条 議長が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ、説明又は意見を聴くことができる。

(事務)

第7条 共同利用推進会議に関する事務は、教育学生支援部教育企画課において処理する。

(雑則)

第8条 この内規に定めるもののほか、共同利用推進会議の運営に関し必要な事項は、共同利用推進会議が別に定める。

参考資料⑤

附 則

この内規は、平成 22 年 4 月 21 日から施行する。

附 則

この内規は、平成 23 年 5 月 9 日から施行する。

附 則

この内規は、平成 24 年 5 月 15 日から施行する。

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室

共同利用運営委員会委員名簿

氏名	所属・職名	備考
小林 直人	愛媛大学教育・学生支援機構副機構長、教育企画室長、教授	第1号委員
中井 俊樹	愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室副室長、教授	第2号委員
吉田 一恵	愛媛大学教育学生支援部長	第3号委員
沖 裕貴	立命館大学教育開発推進機構 教授、教育・学修支援センター長	第4号委員
山川 修	福井県立大学学術教養センター 教授	第4号委員
青野 透	徳島文理大学総合政策学部 教授	第4号委員
鈴木 康之	岐阜大学医学教育開発研究センター 教授	第4号委員

共同利用推進会議委員名簿

氏名	所属・職名	備考
小林 直人	愛媛大学教育・学生支援機構副機構長、教育企画室長、教授	第1号委員
中井 俊樹	愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室副室長、教授	第2号委員
清水 栄子	愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室 講師	第3号委員
吉田 一恵	愛媛大学教育学生支援部長	第4号委員
神 智彦	愛媛大学教育学生支援部教育企画課長	第5号委員
秋谷 恵子	愛媛大学総務部人事課長	第6号委員



平成29年3月 発行

発行 教職員能力開発拠点
(愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室)
〒790-8577 愛媛県松山市文京町3番
TEL.089-927-8922 (FAX兼用)
E-mail opar@stu.ehime-u.ac.jp
<http://web.opar.ehime-u.ac.jp/>
印刷 セキ株式会社